

【表紙】

【提出書類】	有価証券届出書
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2023年3月10日
【発行者名】	アバディーン・ジャパン株式会社
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 矢島 健
【本店の所在の場所】	東京都千代田区大手町一丁目9番2号 大手町フィナンシャルシティグランキューブ
【事務連絡者氏名】	藤井 見枝子
【電話番号】	03-4578-2211
【届出の対象とした募集内国投資信託 受益証券に係るファンドの名称】	[アバディーン・ファンド・セレクション]海外高格付 け債ファンド Bコース（為替ヘッジなし）
【届出の対象とした募集内国投資信託 受益証券の金額】	上限 500億円
【縦覧に供する場所】	該当なし

第一部【証券情報】

（１）【ファンドの名称】

[アバディーン・ファンド・セレクション] 海外高格付け債ファンド Bコース（為替ヘッジなし）

（以下「当ファンド」ということがあります。）

（２）【内国投資信託受益証券の形態等】

当ファンドは、アバディーン・ジャパン株式会社（以下「委託会社」といいます。）を委託会社とし、三菱UFJ信託銀行株式会社（以下「受託会社」といいます。）を受託会社とする契約型の追加型証券投資信託の受益権^{*}です。

当初元本は、1口当たり1円です。

信用格付業者から提供され、もしくは閲覧に供された信用格付はありません。また、信用格付業者から提供され、もしくは閲覧に供される予定の信用格付はありません。

*当ファンドの受益権は、社債、株式等の振替に関する法律（以下「社振法」といいます。）の規定の適用を受けており、受益権の帰属は、後記の「(11)振替機関に関する事項」に記載の振替機関および当該振替機関の下位の口座管理機関（社振法第2条に規定する「口座管理機関」をいい、振替機関を含め、以下「振替機関等」といいます。）の振替口座簿に記載または記録されることにより定まります。（以下、振替口座簿に記載または記録されることにより定まる受益権を「振替受益権」といいます。）委託会社は、やむを得ない事情等がある場合を除き、当該振替受益権を表示する受益証券を発行しません。また、振替受益権には無記名式や記名式の形態はありません。

（３）【発行（売出）価額の総額】

500億円を上限とします。

なお、上記金額には、後記「(5)申込手数料」は含みません。

（４）【発行（売出）価格】

購入申込受付日の翌営業日の基準価額^{*}とします。

*基準価額とは、純資産総額をその時の受益権総口数で除して得た金額です。なお、当ファンドの基準価額は、便宜上、1万口単位で表示されています。

基準価額は毎営業日計算し、原則として翌日の日本経済新聞（朝刊）の「オープン基準価格」欄の〔アバディーン〕に、略称「FS高格債B」として掲載されます。

= 詳しくは、後記〔照会先〕もしくは販売会社にご確認ください。 =

（５）【申込手数料】

購入時に、上記「(4)発行（売出）価格」に対し3.3%（税抜3.0%）以内で販売会社が独自に定める購入時手数料をお支払いいただきます。

= 詳しくは、販売会社にご確認ください。 =

（６）【申込単位】

申込単位（購入単位）は、販売会社が定めるものとします。

収益分配金を再投資する場合は1口単位とします。

当ファンドは、収益の分配がなされた場合、収益分配金が税引き後無手数料で再投資される「自動けいぞく投資」専用ファンドです。購入申込みの際には、申込みの販売会社との間で「自動けいぞく投資約款」^{*}にしたがって契約を締結するものとします。

*販売会社によっては、当該契約または規定については、同様の権利義務関係を規定する名称の異なる契約または規定を使用することがあり、この場合、当該別の名称に読み替えるものとします。

確定拠出年金制度に基づく申込みは1円以上1円単位とします。

販売会社との間で「定時定額購入サービス」^{*}等に関する契約等を取交わした場合、当該契約等で規定する単位とします。

^{*}販売会社によっては、同様の権利義務関係を規定する名称の異なるサービスを行うことがあり、この場合、当該別の名称に読み替えるものとします。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

(7) 【申込期間】

購入の申込期間は、2023年3月11日から2023年9月8日^{*}まで

^{*} 申込期間は、上記期間満了前に有価証券届出書を提出することによって更新されます。

購入申込みについては、午後3時までに購入申込みが行われ、かつ当該購入申込みの受付にかかる販売会社所定の事務手続きが完了したものを当日の申込受付分とします。

なお、販売会社の営業日であっても、申込不可日には購入の申込みの受付は行いません。

申込不可日：ロンドンまたはニューヨークの証券取引所または銀行の休業日

= 詳しくは販売会社にお問い合わせください。 =

(8) 【申込取扱場所】

販売会社において申込みを取扱います。

= 販売会社については、後記〔照会先〕にお問い合わせください。 =

(9) 【払込期日】

販売会社の定める日までに購入代金を当該販売会社にお支払いください。

販売会社は、購入申込受付日の購入代金の総額に相当する金額を、追加信託が行われる日に、委託会社の指定する口座を経由して、受託会社の指定する当ファンド口座に払い込まれます。

(10) 【払込取扱場所】

購入代金は、販売会社にお支払いください。

(11) 【振替機関に関する事項】

当ファンドの振替機関は、株式会社証券保管振替機構です。

(12) 【その他】

購入代金に利息はつきません。

日本以外の地域での受益権の発行はありません。

振替受益権について

当ファンドの受益権は、社振法の規定の適用を受け、上記「(11)振替機関に関する事項」に記載の振替機関の振替業にかかる業務規程等の規則にしたがって取り扱われるものとします。

当ファンドの収益分配金、償還金および換金代金は、社振法および前記「(11)振替機関に関する事項」に記載の振替機関の業務規程その他の規則にしたがって支払われます。

〔照会先〕アバディーン・ジャパン株式会社

お問い合わせ窓口 03-4578-2251

(受付時間は営業日の午前9時から午後5時までです。)

インターネット・ホームページ <https://www.abrdn.com/ja-jp/investor>

第二部【ファンド情報】

第1【ファンドの状況】

1【ファンドの性格】

(1)【ファンドの目的及び基本的性格】

a. ファンドの目的

当ファンドは、親投資信託であるF S 海外高格付け債マザーファンド（以下「マザーファンド」といいます。）への投資を通じて、日本を除く先進主要国の国債をはじめとする各種投資適格債に分散投資し、信託財産の長期的な成長を図ることを目的とします。

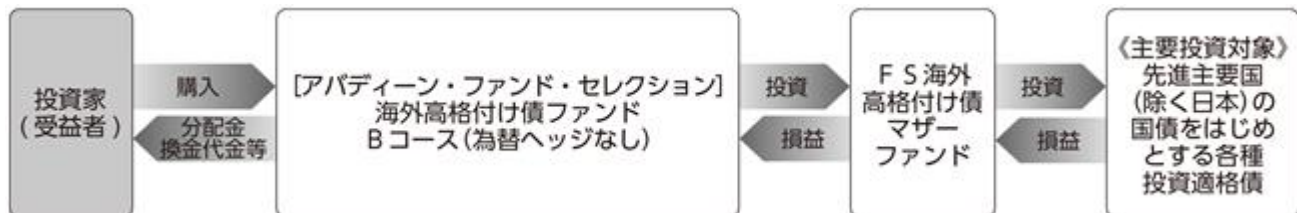
b. ファンドの特色

- ・日本を除く先進主要国の国債をはじめとする各種投資適格債に分散投資
- ・グローバルな運用体制

c. ファミリー・ファンド方式

当ファンドはファミリー・ファンド方式により運用を行います。

ファミリー・ファンド方式とは、複数のファンドを合同運用する仕組みで、投資家から投資された資金をまとめてベビーファンドとし、その資金の全部または一部をマザーファンドに投資して実質的な運用を行うものです。



d. 信託金限度額

委託会社は、受託会社と合意のうえ、3,000億円を限度として信託金を追加することができます。追加信託が行われたときは、受託会社はその引受けを証する書面を委託会社に交付します。委託会社は、受託会社と合意のうえ、当該限度額を変更することができます。

e. 商品分類等

当ファンドの商品分類^{*}は「追加型投信 / 海外 / 債券」です。

^{*}一般社団法人投資信託協会が定める「商品分類に関する指針」に基づきます。

商品分類		
単位型・追加型	投資対象地域	投資対象資産 (収益の源泉)
単位型投信	国内	株式
	海外	債券
追加型投信	内外	不動産投信 その他資産() 資産複合

当ファンドが該当する商品分類を網掛け表示しています。

<当ファンドが該当する商品分類の定義>

単位型・追加型	追加型投信	一度設定されたファンドであってもその後追加設定が行われ従来の信託財産とともに運用されるものをいいます。
投資対象地域	海外	目論見書または投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に海外の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
投資対象資産 (収益の源泉)	債券	目論見書又は投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に債券を源泉とする旨の記載があるものをいいます。

属性区分				
投資対象資産	決算頻度	投資対象地域	投資形態	為替ヘッジ
株式 一般 大型株 中小型株	年1回	グローバル (日本を含まない)	ファミリー・ ファンド	あり ()
債券 一般 公債 社債 その他債券	年2回			
クレジット属性()	年4回	日本 北米 欧州	ファンド・ オブ・ファンズ	なし
不動産投信	年6回(隔月)	アジア オセアニア 中南米		
その他資産 (投資信託証券(債券(高格付債)))	年12回(毎月)	アフリカ 中近東(中東) エマージング		
資産複合()	日々			
資産配分固定型 資産配分変更型	その他()			

*属性区分に記載している「為替ヘッジ」は、対円での為替リスクに対するヘッジの有無を記載しております。当ファンドが該当する属性区分を網掛け表示しています。

<当ファンドが該当する属性区分の定義>

属性の定義は、当ファンドの目論見書または信託約款において、下記の記載があるものをいいます。

投資対象資産	その他資産	主として、株式、債券、不動産投信以外の資産に投資するものをいいます。
決算頻度	年2回	年2回決算を行うものをいいます。
投資対象地域	グローバル (日本を含まない)	組入資産による投資収益が世界の資産を源泉とするものをいいます。なお、当ファンドにおいては「世界の資産」に「日本」は含みません。
投資形態	ファミリー・ファンド	親投資信託(マザーファンド。ファンド・オブ・ファンズにのみ投資されるものを除きます。)を投資対象として投資するものをいいます。
為替ヘッジ	為替ヘッジなし	為替のヘッジを行わない旨の記載があるものまたは為替のヘッジを行う旨の記載がないものをいいます。

当ファンドは、マザーファンドへの投資を通じて、実質的に債券を投資対象としております。したがって、「商品分類」における投資対象資産と、「属性区分」における投資対象資産は異なります。

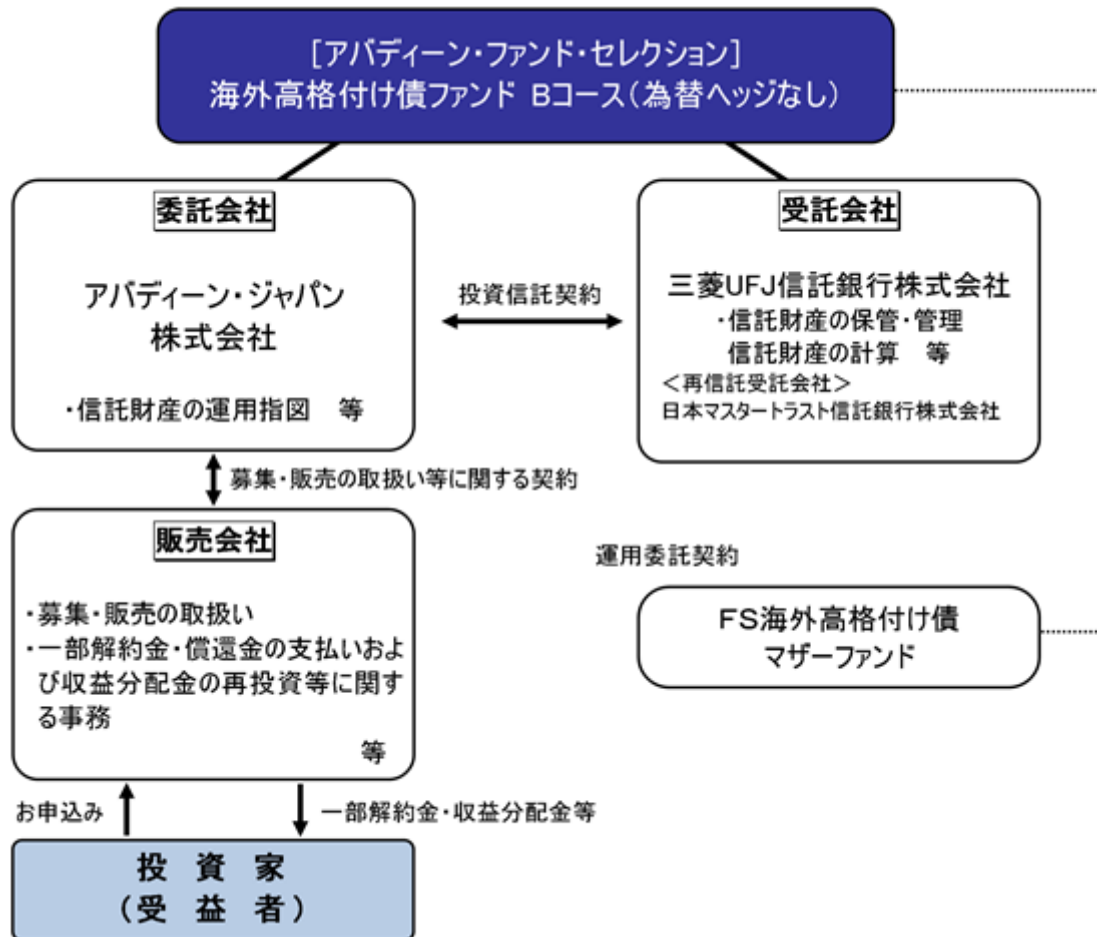
(注)当ファンドが該当しない商品分類および属性区分の定義については、一般社団法人投資信託協会のインターネット・ホームページ(<https://www.toushin.or.jp>)をご参照ください。

(2)【ファンドの沿革】

- 1998年11月20日 信託契約締結、当ファンドの設定・運用開始
- 2000年7月12日 クレディ・スイス・アセット・マネジメント・リミテッドおよびクレディ・スイス・アセット・マネジメント・エルエルシーへ運用指図の権限の委託を開始
- 2007年2月26日 当ファンドの運用指図の権限の委託を中止し、マザーファンドの運用指図の権限の委託のみ継続
- 2009年7月1日 [アバディーン・ファンド・セレクション] 海外高格付け債ファンド Aコース(為替ヘッジあり)、[アバディーン・ファンド・セレクション] 海外高格付け債ファンド Bコース(為替ヘッジなし)へ名称変更
マザーファンドの運用指図の権限の委託先を変更
- 2016年3月31日 [アバディーン・ファンド・セレクション] 海外高格付け債ファンド Aコース(為替ヘッジあり) 信託の終了
- 2019年3月9日 [アバディーン・スタンダード・ファンド・セレクション] 海外高格付け債ファンド Bコース(為替ヘッジなし)へ名称変更
- 2022年9月10日 [アバディーン・ファンド・セレクション] 海外高格付け債ファンド Bコース(為替ヘッジなし)へ名称変更

(3) 【ファンドの仕組み】

a. ファンドの仕組み



< 委託会社が関係法人と締結している契約等の概況 >

受託会社（投資信託契約）

当ファンドの運用方針、運用制限、信託報酬の総額、手数料等、ファンドの設定・維持のために必要な事項について規定しています。

販売会社（募集・販売の取扱い等に関する契約）

委託会社が販売会社に委託する当ファンドの募集・販売に係る業務の内容、一部解約に係る事務の内容、およびこれらに関する手続き等について規定しています。

b. 委託会社の概況

(以下に記載する情報は、本書提出日現在のものです。)

資本金の額

資本金 : 940百万円

発行する株式の総数 : 320,000株

発行済株式の総数 : 308,168株

会社の沿革

1993年9月16日	クレディ・スイス投信株式会社設立
1993年9月30日	証券投資信託委託業の認可
1995年5月31日	投資顧問業の登録
1997年3月31日	投資一任契約に係る業務の認可
1997年4月1日	クレディ・スイス投資顧問株式会社と合併し、商号をクレディ・スイス投信投資顧問株式会社に変更
1998年11月1日	商号をクレディ・スイス投信株式会社に変更
2002年2月1日	ウォーバーク・ピンカス・アセット・マネジメント投信株式会社と合併
2009年7月1日	商号をアバディーン投信投資顧問株式会社に変更
2017年12月1日	商号をアバディーン・スタンダード・インベストメンツ株式会社に変更
2021年9月27日	商号をアバディーン・ジャパン株式会社に変更

大株主の状況

名称	住所	所有株式数	比率
アバディーン・ホールディングス・リミテッド (abrdn Holdings Limited) (注)	英国スコットランド、 アバディーン	308,168株	100.00%

(注) アバディーン・アセット・マネジメントPLC (Aberdeen Asset Management PLC) は、2022年11月25日にアバディーン・ホールディングス・リミテッド (abrdn Holdings Limited) に商号変更しました。

2【投資方針】

(1)【投資方針】

a. 基本方針

当ファンドは、信託財産の長期的な成長を図ることを目的として運用を行います。

b. 投資態度

主としてマザーファンドに投資します。なお、債券に直接投資する場合があります。

・マザーファンドでは、原則として、日本を除く先進主要国の「BBB-/Baa3」格以上の各種債券（ソブリン債、投資適格事業債、アセットバック証券、モーゲージ証券、商業用モーゲージ証券、永久変動利付き債、優先証券等）に分散投資します。投資対象となる各種債券は以下のとおりです。

[投資対象とする各種債券について]

ソブリン債	各国政府や政府機関が発行する債券の総称で、自国通貨建、外貨建があります。また、世界銀行やアジア開発銀行など国際機関が発行する債券もこれに含まれます。
投資適格事業債	S&P社やムーディーズ社といった格付機関によって格付けされている事業債で「BBB-/Baa3」格以上の事業債をいいます。
アセットバック証券	自動車ローン、クレジットカード・ローンなど各種の金融債権を裏付けとして発行される証券をいいます。
モーゲージ証券	住宅ローン(モーゲージ・ローン)を裏付けとして発行される証券をいいます。
商業用モーゲージ証券	商業用不動産(オフィス・ビル、ショッピング・センター、ホテルなど)の賃貸料収入などを裏付けとして発行される証券をいいます。
永久変動利付き債	償還期限を定めていない債券で、表面利率が指標金利を基準に定期的に更改されるものをいいます。
優先証券	1990年代初めより米国において急速に発展してきた新しい形態の有価証券で、株式と社債の性格を併せ持っています。弁済順位は株式と上級社債の中間に位置します。なお、優先証券には様々な形態のものがありますが、当ファンドでは債券の性格を有するもののみを投資対象とします。

- ・マザーファンドのポートフォリオの平均格付けの水準は、原則として「A -」格以上に維持します。

マザーファンドでは、債券の信用格付のポイント制を導入して、ポートフォリオ全体の平均格付けの水準を、原則として「A -」格以上に維持し、必要以上にポートフォリオ全体のクレジット・リスクが大きくならないよう配慮していきます。

為替ヘッジ

実質外貨建資産に対し、原則として為替ヘッジを行いません。

- * 「実質外貨建資産」とは、当ファンドに属する外貨建資産の時価総額とマザーファンドに属する外貨建資産のうち当ファンドに属するとみなした額（当ファンドに属するマザーファンドの時価総額にマザーファンドの純資産総額に占める外貨建資産の時価総額の割合を乗じて得た額をいいます。）との合計額をいいます。

ベンチマーク

「FTSE世界国債インデックス（除く日本）」[円ベース]

現地通貨ベースのインデックスを円換算したものです。

ベンチマーク^{*}である「FTSE世界国債インデックス（除く日本）」は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。

- * 「ベンチマーク」とは、ファンドのパフォーマンス評価やポートフォリオのリスク管理を行う際の基準となる指標のことです。当ファンドのパフォーマンスは、ベンチマークを上回る場合もあれば下回る場合もあります。当ファンドは、長期的にベンチマークを上回る投資成果の実現を目指しますが、ベンチマークに対して一定の成果をあげることを保証するものではありません。また、当ファンドのベンチマークを見直す場合があります。

c . 運用の特色

（以下は、マザーファンドの特色となります。）

超過収益の源泉を分散することにより、リスク・リターン特性の向上を目指します。

アバディーンは、債券運用プロセスは独自のリサーチ、魅力的なリスク・リターン特性を持った投資機会の発掘、様々な相関性の低い超過収益の源泉を組み合わせた運用を主な特徴としています。

金利（デュレーション、イールドカーブ、地域（国））、通貨、債券資産（国債、投資適格事業債）の各分野において市場の非効率性を発見し、付加価値の創出に努めています。

チーム・アプローチを重視します。

欧州、米国、シンガポール、オーストラリアなどにポートフォリオ・マネジャーとアナリストを配置し、グローバルな情報交換体制で運用を行います。運用担当者は、明確な運用目標と報告体系で運用を行い、個別の超過収益の源泉において投資機会を追求します。

クレジット、ソブリンの運用担当者がそれぞれの専門分野で独立して分析を行います。

当該マザーファンドは、運用の指図に関する権限の一部を次の者に委託します。

- ・アバディーン・インベストメンツ・リミテッド
- ・アバディーン・インク

また、アバディーン・インベストメンツ・リミテッドは、委託を受けた運用指図に関する権限の一部を次の者に再委託する場合があります。

- ・アバディーン・インク
- ・アバディーン・アジア・リミテッド
- ・アバディーン・オーストラリア・リミテッド

- * 運用の指図権限を委託されるそれぞれの者の委託の内容の範囲については、運用委託契約により委託会社が適宜決定します。なお、委託会社が適切であると認めた場合には運用の権限委託を行わない場合があります。

運用プロセス

グローバル経済分析

質の高い独自のリサーチを元に経済情勢を見極め、債券市場の観点から分析します。

投資アイデアの創出

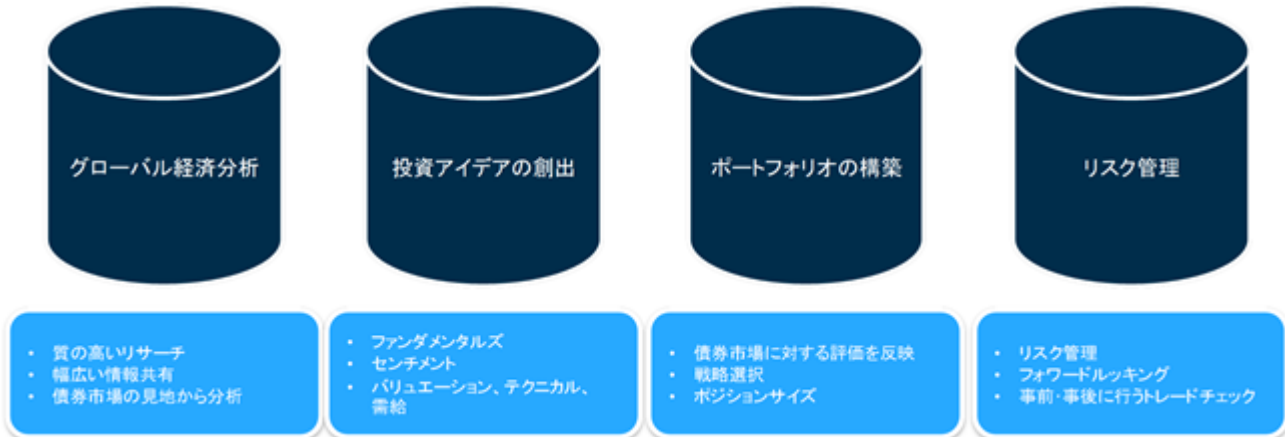
クレジットおよびソブリンの各リサーチを元に、金利（デュレーション、イールドカーブ、地域（国））、通貨、セクター等について分析し、投資アイデアを創出します。

ポートフォリオの構築

金利（デュレーション、イールドカーブ、地域（国））、通貨、セクター等の投資判断をアクティブに行い、分散したポートフォリオを構築します。また、定期的にポートフォリオ組入銘柄の見直しを行います。

リスク管理

運用チームがポートフォリオを恒常的にモニタリングします。また、定性・定量の両観点からポートフォリオおよびポートフォリオ・リスクのレビューを行います。



* 上記は本書提出日現在のものであり、今後変更となる場合があります。

(2) 【投資対象】

以下に記載の a . から d . については、添付書類の当ファンドの信託約款から抜粋しております。

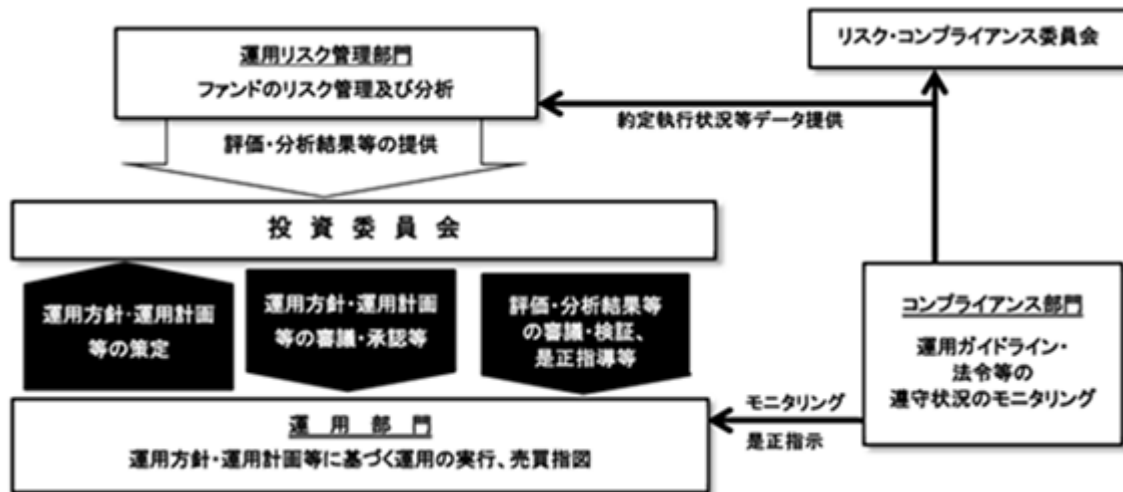
a . 投資対象とする有価証券

委託会社は、信託金を、マザーファンド受益証券のほか、次の有価証券（金融商品取引法（以下「金商法」といいます。）第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を除きます。）に投資することを指図します。

- 1 . 株券または新株引受権証券
- 2 . 国債証券
- 3 . 地方債証券
- 4 . 特別の法律により法人の発行する債券
- 5 . 社債券（新株引受権証券と社債券とが一体となった新株引受権付社債券（以下「分離型新株引受権付社債券」といいます。）の新株引受権証券を除きます。）
- 6 . 特定目的会社にかかる特定社債券（金商法第2条第1項第4号で定めるものをいいます。）
- 7 . 特別の法律により設立された法人の発行する出資証券（金商法第2条第1項第6号で定めるものをいいます。）

8. 協同組織金融機関にかかる優先出資証券(金商法第2条第1項第7号で定めるものをいいます。)
 9. 特定目的会社にかかる優先出資証券または新優先出資引受権を表示する証券(金商法第2条第1項第8号で定めるものをいいます。)
 10. コマーシャル・ペーパー
 11. 新株引受権証券(分離型新株引受権付社債券の新株引受権証券を含みます。以下同じ。)
および新株予約権証券
 12. 外国または外国の者の発行する証券または証書で、前記1.から11.までの証券または証書の性質を有するもの
 13. 投資信託または外国投資信託の受益証券(金商法第2条第1項第10号で定めるものをいいます。)
 14. 投資証券または外国投資証券(金商法第2条第1項第11号で定めるものをいいます。)
 15. 外国貸付債権信託受益証券(金商法第2条第1項第18号で定めるものをいいます。)
 16. オプションを表示する証券または証書(金商法第2条第1項第19号で定めるものをいい、有価証券に係るものに限ります。)
 17. 預託証書(金商法第2条第1項第20号で定めるものをいいます。)
 18. 外国法人が発行する譲渡性預金証書
 19. 指定金銭信託の受益証券(金商法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に限ります。)
 20. 貸付債権信託受益権であって金商法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に表示されるべきもの
 21. 外国の者に対する権利で前号の有価証券の性質を有するもの
- なお、1.の証券または証書、12.ならびに17.の証券または証書のうち1.の証券または証書の性質を有するものおよび14.の証券のうちクローズド・エンド型のものを「株式」といい、2.から6.までの証券および12.ならびに17.の証券または証書のうち2.から6.までの証券の性質を有するものを「公社債」といい、13.および14.の証券のうちクローズド・エンド型以外のものを「投資信託証券」といいます。
- b. 投資対象とする金融商品
委託会社は、信託金を、前記a.に掲げる有価証券のほか、次に掲げる金融商品(金商法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を含みます。)により運用することを指図することができます。
 1. 預金
 2. 指定金銭信託(金商法第2条第1項第14号に規定する受益証券発行信託を除きます。)
 3. コール・ローン
 4. 手形割引市場において売買される手形
 5. 貸付債権信託受益権であって金商法第2条第2項第1号で定めるもの
 6. 外国の者に対する権利で前記5.の権利の性質を有するもの
 - c. 前記a.の規定にかかわらず、この信託の設定、償還、投資環境の変動等への対応等、委託会社が運用上必要と認めるときには、委託会社は、信託金を、前記b.に掲げる金融商品により運用することの指図ができます。
 - d. その他の主な投資対象
 1. 有価証券先物取引等を行うことの指図をすることができます。
 2. スワップ取引を行うことの指図をすることができます。
 3. 金利先渡取引および為替先渡取引を行うことの指図をすることができます。
 4. 外国為替の売買の予約を指図することができます。

(3) 【運用体制】



運用体制に関する社内規程等

ファンドの運用に関する社内規程として、ポートフォリオ・マネジャーが遵守すべき服務規程を設け、ポートフォリオ・マネジャーの適正な行動基準および禁止行為を規定し、法令遵守、顧客の保護、取引の公正を図っています。

また、実際の運用の指図においては、有価証券などの売買執行基準およびその遵守手続きなどに関して取扱い基準を設けることにより、法令遵守の徹底を図るとともに、利益相反となるインサイダー取引等を防止し、かつ売買執行においては最良執行に努めています。

関係法人に関する管理体制

受託会社：委託会社の社内ガイドラインに基づき、委託する業務の明確化および外部委託先の選定に係り適正な業務執行能力・信用力等を評価します。委託会社は、システム・ダウン、顧客情報の漏洩、緊急時対応等を含む内部統制状況を定期的に監視しています。

(参考) マザーファンドの投資顧問会社：

委託会社の社内ガイドラインに規定された、投資顧問会社の選定基準に基づき任命されます。委託会社は定期的に運用状況、運用ガイドラインの遵守状況などについてモニタリングを行います。

* 運用業務の一部は、マザーファンドの運用委託契約に基づき、運用指図の権限を委託された者が行います。

* 上記は2023年2月末日現在のものであり、今後変更となる場合があります。

(4) 【分配方針】

a. 収益分配方針

年2回の決算時（原則として毎年6月10日および12月10日）に、原則として以下の方針に基づき分配を行います。

分配対象額の範囲は、経費控除後の配当等収入および売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。

分配金額は、基準価額の水準および国内の金利水準等を勘案して委託会社が決定します。

留保益の運用については特に制限を設けず、委託会社の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。

b. 収益の分配方式

信託財産から生ずる毎計算期間終了日における利益は、次の方法により処理します。

イ. 配当金、利子、貸付有価証券にかかる品貸料およびこれらに類する収益から支払利息を控除した額（「配当等収益」といいます。）は、諸経費、監査費用（消費税等相当額込）ならびに信託報酬（消費税等相当額込）を控除した後、その残金を受益者に分配することができます。なお、次期以降の分配金にあてるため、その一部を分配準備積立金として積立てることができます。

ロ. 売買損益に評価損益を加減した利益金額（「売買益」といいます。）は、諸経費、監査費用（消費税等相当額込）ならびに信託報酬（消費税等相当額込）を控除し、繰越欠損金のあるときは、その全額を売買益をもって補てんした後、受益者に分配することができます。なお、次期以降の分配にあてるため、分配準備積立金として積立てることができます。

毎計算期間終了日において、信託財産につき生じた損失は、次期に繰越します。

分配金は税引き後無手数料で再投資されますが、再投資により増加した受益権は、振替口座簿に記載または記録されます。

c. 収益分配金に関する留意事項

分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。

分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部ないし全てが、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。

基準価額の水準等によっては分配を行わない場合もあります。また、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

(5) 【投資制限】

以下に記載のa.およびb.については、添付書類の当ファンドの信託約款から抜粋しております。

a. 信託約款の「運用の基本方針」に定める投資制限

外貨建資産の実質投資割合には制限を設けません。

株式（新株引受権証券を含みます。）への実質投資割合は、取得時において信託財産の純資産総額の10%以内とします。

同一銘柄の株式への実質投資割合は、取得時において信託財産の純資産総額の5%以内とします。

一般社団法人投資信託協会規則に定める一の者に対する株式等エクスポージャー、債券等エクスポージャーおよびデリバティブ等エクスポージャーの信託財産の純資産総額に対する実質比率は、原則として、それぞれ10%、合計で20%を超えないものとし、当該比率を超えることとなった場合には、委託者は、一般社団法人投資信託協会規則に従い当該比率以内となるよう調整を行うこととします。

b. 信託約款上のその他の投資制限

投資する株式等の範囲

委託会社が投資することを指図する株式、新株引受権証券および新株予約権証券は、取引所に上場されている株式の発行会社の発行するもの、取引所に準ずる市場において取引されている株式の発行会社の発行するものとし、ただし、株主割当または社債権者割当により取得する株式、新株引受権証券および新株予約権証券については、この限りではありません。

前記の規定にかかわらず、上場予定または登録予定の株式、新株引受権証券および新株予約権証券で目論見書等において上場または登録されることが確認できるものについては、委託会社が投資することを指図することができるものとします。

先物取引等の運用指図および範囲

- イ．委託会社は、わが国の取引所における有価証券先物取引（金商法第28条第8項第3号イに掲げるものをいいます。）、有価証券指数等先物取引（金商法第28条第8項第3号ロに掲げるものをいいます。）および有価証券オプション取引（金商法第28条第8項第3号ハに掲げるものをいいます。）ならびに外国の取引所におけるこれらの取引と類似の取引を行うことの指図をすることができます。なお、選択権取引は、オプション取引に含めて取り扱うものとします（以下同じ。）。
- ロ．委託会社は、わが国の取引所における通貨にかかる先物取引ならびに外国の取引所における通貨にかかる先物取引およびオプション取引を行うことの指図をすることができます。
- ハ．委託会社は、わが国の取引所における金利にかかる先物取引およびオプション取引ならびに外国の取引所におけるこれらの取引と類似の取引を行うことの指図をすることができます。

スワップ取引の運用指図および範囲

- イ．委託会社は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資するため、異なった通貨、異なった受取金利または異なった受取金利とその元本を一定の条件のもとに交換する取引（以下「スワップ取引」といいます。）を行うことの指図をすることができます。
- ロ．スワップ取引の指図にあたっては、当該取引の契約期限が、原則として信託約款第4条に定める信託期間を超えないものとします。ただし、当該取引が当該信託期間内で全部解約が可能なものについてはこの限りではありません。
- ハ．スワップ取引の評価は、市場実勢金利等をもとに算出した価額で評価を行うものとします。
- ニ．委託会社は、スワップ取引を行うにあたり担保の提供あるいは受入れが必要と認めるときは、担保の提供あるいは受入れの指図を行うものとします。

金利先渡取引および為替先渡取引の運用指図および範囲

- イ．委託会社は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資するため、金利先渡取引および為替先渡取引を行うことの指図をすることができます。
- ロ．金利先渡取引および為替先渡取引の指図にあたっては、当該取引の決済日が、原則として信託約款第4条に定める信託期間を超えないものとします。ただし、当該取引が当該信託期間内で全部解約が可能なものについてはこの限りではありません。
- ハ．金利先渡取引および為替先渡取引の評価は、市場実勢金利等をもとに算出した価額で行うものとします。
- ニ．委託会社は、金利先渡取引および為替先渡取引を行うにあたり担保の提供あるいは受入れが必要と認めるときは、担保の提供あるいは受入れの指図を行うものとします。

有価証券の貸付けの指図および範囲

- イ．委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、信託財産に属する株式および公社債を次の1．および2．の範囲内で貸付けを行うことの指図をすることができます。
 - 1．株式の貸付けは、貸付時点において、貸付株式の時価合計額が、信託財産で保有する株式の時価合計額の50%を超えないものとします。
 - 2．公社債の貸付けは、貸付時点において、貸付公社債の額面金額の合計額が、信託財産で保有する公社債の額面金額の合計額の50%を超えないものとします。
- ロ．前記イ．に定める限度額を超えることとなった場合には、委託会社は、すみやかにその超える額に相当する契約の一部の解約を指図するものとします。
- ハ．委託会社は、有価証券の貸付けにあたって必要と認めるときは、担保の受入れの指図を行うものとします。

特別の場合の外貨建有価証券への投資制限

外貨建有価証券への投資については、わが国の国際収支上の理由等により特に必要と認められる場合には、制約されることがあります。

外国為替予約の指図

委託会社は、信託財産に属する外貨建資産とマザーファンドの信託財産に属する外貨建資産のうち信託財産に属するとみなした額（信託財産に属するマザーファンドの時価総額にマザーファンドの信託財産の純資産総額に占める外貨建資産の時価総額の割合を乗じて得た額をいいます。）との合計額について、当該外貨建資産の為替ヘッジのため、外国為替の売買の予約を指図することができます。

デリバティブ取引等に係る投資制限

デリバティブ取引等について、一般社団法人投資信託協会の規則の定めるところに従い、合理的な方法により算出した額が、信託財産の純資産総額を超えないものとします。

資金の借入れ

- イ．委託会社は、信託財産の効率的な運用ならびに運用の安定性に資するため、一部解約に伴う支払資金の手当て（一部解約に伴う支払資金の手当てのために借入れた資金の返済を含みます。）を目的として、または再投資にかかる収益分配金の支払資金の手当てを目的として、資金借入れ（コール市場を通じる場合を含みます。）の指図をすることができます。なお、当該借入金をもって有価証券等の運用は行わないものとします。
 - ロ．一部解約に伴う支払資金の手当てにかかる借入期間は、受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の売却代金の受渡日までまたは解約代金入金日までもしくは償還金の入金日までが5営業日以内である場合の期間とし、資金借入額は当該有価証券等の売却代金または解約代金もしくは償還金の合計額、かつ借入指図を行う日における信託財産の純資産総額の10%以内とします。
 - ハ．収益分配金の再投資にかかる借入期間は信託財産から収益分配金が支弁される日からその翌営業日までとし、資金借入額は収益分配金の再投資額を限度とします。
- 二．借入金の利息は信託財産中より支弁します。

c．その他の法令上の投資制限

（法令は本書提出日現在のものであり、今後改正される場合があります。）

イ．運用の指図の制限（投資信託及び投資法人に関する法律第9条）

委託会社は、同一の法人の発行する株式を、以下の1．に掲げる数が2．に掲げる数を超えることとなる場合においては、投資信託財産をもって取得することを当該投資信託財産の受託会社である信託会社等に指図することはできません。

- 1．その運用の指図を行うすべての委託者指図型投資信託につき、投資信託財産として有する当該株式に係る議決権（株主総会において決議をすることができる事項の全部につき議決権を行使することができない株式についての議決権を除き、会社法（平成17年法律第86号）第879条第3項の規定により議決権を有するものとみなされる株式についての議決権を含みます。）の総数
- 2．当該株式に係る議決権の総数に内閣府令で定める率を乗じて得た数

ロ．デリバティブ取引に係る投資制限

（金融商品取引業等に関する内閣府令第130条第1項第8号）

委託会社は、信託財産に関し、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標に係る変動その他の理由により発生し得る危険に対応する額としてあらかじめ委託会社が定めた合理的な方法により算出した額が当該信託財産の純資産額を超えることとなる場合において、デリバティブ取引（新株予約権証券、新投資口予約権証券またはオプションを表示する証券もしくは証書に係る取引および選択権付債券売買を含みます。）を行い、または継続することを受託会社に指図しないものとします。

（参考）マザーファンドの概要

親投資信託
F S 海外高格付け債マザーファンド
運用の基本方針

信託約款第12条に基づき委託者の定める方針は、次のものとします。

1. 基本方針

この投資信託は、世界主要国（日本を除く）の国債をはじめとした各種投資適格債に分散投資を行い、信託財産の長期的な成長を図ることを目的として運用を行います。

2. 運用方法

(1)投資対象

日本を除く先進主要国の各種投資適格債（「B B B - 」格以上の債券）を主要投資対象とします。

(2)投資態度

原則として、日本を除く先進主要国の「B B B - 」格以上の各種債券（ソブリン債、投資適格事業債、アセットバック証券、モーゲージ証券、商業用モーゲージ証券、永久変動利付き債、優先証券等）に分散投資します。

運用にあたっては、邦貨建余裕資金の運用および為替の売買等の一部を除く運用指図に関する権限の一部を、原則として、アバディーン・インベストメンツ・リミテッドおよびアバディーン・インクにそれぞれ委託します。アバディーン・インベストメンツ・リミテッドは、委託を受けた運用指図に関する権限の一部を、アバディーン・インク、アバディーン・アジア・リミテッド、アバディーン・オーストラリア・リミテッドに対して、再委託することがあります。ただし、運用の指図権限を委託されるそれぞれの者の委託の内容の範囲については、運用委託契約により委託会社が適宜決定します。なお、委託会社が適切であると認められた場合には運用の権限委託を行わない場合があります。

モーゲージ証券については、リスクの高いレバレッジ型の証券には投資しません。

ポートフォリオの平均格付けの水準は、原則として「A - 」格以上に維持します。

外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。

組入債券がデフォルトした場合には、当該債券を速やかに売却することを基本としますが、市況動向等を勘案して、売却時期を決定する場合があります。

国内において行われる有価証券先物取引、有価証券指数等先物取引、有価証券オプション取引、通貨に係る先物取引、通貨に係る選択権取引、金利に係る先物取引および金利に係るオプション取引ならびに外国の市場における有価証券先物取引、有価証券指数等先物取引、有価証券オプション取引、通貨に係る先物取引、通貨に係る選択権取引、金利に係る先物取引および金利に係るオプション取引と類似の取引（以下「有価証券先物取引等」といいます。）を行うことができます。（ヘッジ目的に限定しません。）

信託財産に属する資産の効率的な運用に資するため、異なった通貨、異なった受取金利または異なった受取金利とその元本を一定の条件のもとに交換する取引（以下「スワップ取引」といいます。）ならびに金利先渡取引および為替先渡取引を行うことができます。（ヘッジ目的に限定しません。）

(3)投資制限

外貨建資産の投資割合には制限を設けません。

株式（新株引受権証券を含みます。）への投資割合は、取得時において信託財産の純資産総額の10%以内とします。

同一銘柄の株式への投資割合は、取得時において信託財産の純資産総額の5%以内とします。

有価証券先物取引等は信託約款第15条の範囲で行います。

スワップ取引は信託約款第16条の範囲で行います。

金利先渡取引および為替先渡取引は信託約款第17条の範囲で行います。

一般社団法人投資信託協会規則に定める一のものに対する株式等エクスポージャー、債券等エクスポージャーおよびデリバティブ等エクスポージャーの信託財産の純資産総額に対する比率は、原則として、それぞれ10%、合計で20%を超えないものとし、当該比率を超えることとなった場合には、委託者は、一般社団法人投資信託協会規則に従い当該比率以内となるよう調整を行うこととします。

3【投資リスク】

当ファンドは、値動きのある資産に投資しますので、基準価額は変動します。

投資者の皆様は投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。投資信託は預貯金と異なります。

運用により信託財産に生じた損益はすべて投資者の皆様へ帰属します。

当ファンドのリスクおよび留意点は以下の通りです。ただし、下記に限定されるものではありません。

< 基準価額の変動要因等 >

金利変動リスク

債券および債券先物の価格は金利変動の影響を大きく受けます。投資している債券市場の金利が上昇した場合、実質的に組入れている債券の価格が下落することがあります。債券の市場価格は、基本的に市場の金利水準の変化に対応して変動します。金利が上昇する過程では債券の価格は下落（利回りは上昇）し、逆に金利が低下する過程では債券の価格は上昇（利回りは低下）することになります。

カントリー・リスク

投資対象国・地域において、政治・経済情勢の変化等による市場の混乱、取引に対する規制の新設等の場合には、投資額が予想外に減少したり、方針に沿った運用が困難となることがあります。

信用リスク

債券の発行体は債券の保有者に対し、あらかじめ決められた期日に利金や償還金を支払う義務を負いますが、発行体が財政難や経営不振などの理由から、この義務を履行できなくなり（デフォルト）、当該債券の価格が下落することが考えられます。このように、発行体がデフォルトに陥り債券の元利金を回収することができなくなることで、発行体や社債の元利金の支払いを保証している保証人（該当する場合には）の信用状況の変化等により債券価格が下落するリスクなどがあります。この信用リスクの一つの尺度としては、民間の格付機関による「信用格付」があり、一般的には信用格付の高い発行体ほど信用リスクが低いといえますが、信用格付も信用リスクの絶対的な指標ではありません。

流動性リスク

有価証券等を売却あるいは取得しようとする際に、市場に十分な需要や供給がない場合や取引規制等により十分な流動性の下での取引を行えない、または取引が不可能となる場合があります。

デリバティブ（先物取引等）取引のリスク

価格変動リスクを回避するため、デリバティブ取引を行うことがあります。デリバティブ取引には、ヘッジする商品とヘッジされる資産との間の相関関係や証拠金を積むことによるリスクなどが伴います。また、実際の価格変動が見通しと異なった場合、運用資産が損失を被る可能性があります。

為替変動リスク

外貨建資産（外国為替予約取引を含みます。）の円換算価値は、資産自体の価格変動のほか、当該外貨の円に対する為替レートの変動の影響を受けます。為替レートは、各国の金利動向、政治・経済情勢、為替市場の需給その他の要因により大幅に変動することがあります。

当ファンドは実質外貨建資産に対して、原則として為替ヘッジを行わないため、為替変動の影響を直接的に受けます。

市場の閉鎖等に伴うリスク

証券市場・外国為替市場等の金融市場は、世界的な経済事情の急変、その国における政策の変更、政変または天災地変等の諸事情により閉鎖されることがあり、混乱することがあります。これらにより、当ファンドの運用が影響を被り、基準価額が影響を受けることがあります。

<その他当ファンドの投資対象となる各種債券の主な固有のリスク>

ソブリン債への投資リスク

ソブリン債とは、各国政府や政府機関が発行する債券を総称するもので、一般的には比較的信用リスクが低いとされていますが、元利金の支払いの停止、延期その他によるデフォルト（債務不履行）の可能性があります。

各種債権を証券化したものへの投資リスク（モーゲージ証券およびアセットバック証券等）

1. 各種債権の原債務者によるデフォルトにより、証券化対象の資産のポートフォリオ（以下「特定資産」といいます。）のパフォーマンスが悪化し、投資元本が回収されない場合があります。
2. 特定資産を証券化して資金調達を行う者（オリジネーター）が倒産した場合に、これらの証券の発行体との間の倒産隔離が十分になされていない場合には、オリジネーターの倒産時に特定資産がオリジネーターの資産であるとみなされて証券化商品の元金支払いが履行不能ないしは履行遅滞に陥るリスクがあります。
3. 特定資産からの元利金の回収を行う回収業者が倒産した場合に、回収業者が回収した資金が回収業者の破産財団等に組入れられて証券化商品の元金支払いが履行不能ないしは履行遅滞に陥るリスクがあります。
4. 住宅ローンなどの借り手が予想を上回ってローンの期限前返済を行った場合、予想以上に早く元本の一部償還を受ける可能性があります。
5. 期限前返済に伴い償還された元本を再投資する場合、金利が低下している局面では、再投資利回りが期限前返済に伴い一部償還になった証券の利回りよりも低くなる可能性があります。期限前償還を受けた元本を再投資する場合には、これまでの特定資産と比べてリターンが下回るリスクがあります。
6. 証券化商品には、元金支払いを確保するための信用補完措置がなされているのが一般的ですが、それらの信用補完が想定されたとおりに機能し元金支払いが確実になされるという保証はありません。

永久変動利付債への投資リスク

永久変動利付債は償還期限が定められていないため、原則として長期の保有を前提としており、償還までの期間に発行体の倒産等により債券がデフォルト（債務不履行）になる可能性は、一般的には、同じ発行体の発行する償還期限が定められている債券より高くなります。

優先証券への投資リスク

優先証券には一般の社債と比較して株式に類似している特性があるため、一般の社債以上に発行体の業績の変動の影響を受ける場合があります。優先証券の発行体において、万一元金支払い不履行や支払い遅延等が生じると、当該優先証券の価格は大幅に下落します。この際、優先証券は弁済順位が一般の債券に劣後するため、債券や他の債務に比べて下落幅が大きくなる可能性があります。通常、信用格付が低い優先証券は高い利回りで取引されますが、信用格付が高い債券よりもデフォルト（債務不履行）のリスクも高くなります。

< その他の留意点 >

繰上償還に関わる留意点

当ファンドは、信託期間中であっても、残存口数が10億口を下回ることとなった場合等には、繰上償還することがあります。また、投資環境の変化等により、委託会社が申込期間を更新しないことや申込みを停止することがあります。

投資方針の変更に關わる留意点

経済情勢や投資環境等の変化および投資効率等の観点から、投資対象および投資手法の変更を行う場合があります。

収益分配方針に関わる留意点

当ファンドは、基準価額の水準、市場動向等によっては分配を行わないこともあります。また、基準価額が当初元本を下回る場合においても分配原資となる売買益、利子等収益があれば分配を行う場合があります。

ファミリー・ファンド方式に関わる留意点

マザーファンドに、他のファンドが投資する場合には、解約資金を手当てするために、マザーファンドの追加買付・解約に伴う資金変動が生じることがあり、市況動向や取引量等の状況によっては、当ファンドの基準価額に影響を及ぼす場合があります。

申込みの中止等の可能性に関わる留意点

委託会社は、取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止その他やむを得ない事情（社会的基盤の機能不全や予測不能な事態の発生など）があるときは購入・換金の受付を中止することおよびすでに受付けた購入・換金の受付を取消すことができます。

換金の受付を中止した場合には、受益者は当該受付け中止以前に行った当日の換金の申込みを撤回できます。ただし、受益者がその換金の申込みを撤回しない場合には、当該受付け中止を解除した後の最初の基準価額計算日に換金の申込みを受付けたものとしします。

法令・税制・会計等の変更の可能性に関わる留意点

当ファンドに適用される法令・税制・会計等は、変更になる可能性があります。

目論見書の記載事項等の変更の可能性に関わる留意点

有価証券届出書の訂正届出書の提出等により、目論見書の記載事項等が変更になる可能性があります。

その他

- ・当ファンドは、クーリング・オフ制度（金融商品取引法第37条の6）の適用はありません。
- ・当ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要が生じた場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金の申込みの受付けが中止となる可能性、換金代金のお支払が遅延する可能性があります。
- ・資金動向や市況動向等によっては、当ファンドおよびマザーファンドの投資方針に基づいた運用ができなくなる場合があります。
- ・コンピューター関係の不慮の出来事に起因する市場リスクや、システム上のリスクが生じる可能性があります。
- ・当ファンドは預貯金や保険契約と異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構などの保護の対象ではありません。また、証券会社以外で購入された場合は、投資者保護基金の保護の対象ではありません。

< リスクの管理体制 >

委託会社では、リスク管理に関するリスク・マネジメント・ポリシーに基づき、ファンドのパフォーマンス、運用リスクの分析管理、その他各種リスクの管理を、運用部から独立したリスク管理部門が行っております。また、定期的に投資委員会を開催し、各プロダクトのパフォーマンスとそのリスクの管理・分析に関する審議を行っております。

委託会社では、流動性リスク管理に関する規程を定め、ファンドの組入資産の流動性リスクのモニタリングなどを実施するとともに、緊急時対応策の策定・検証などを行います。取締役会等は、流動性リスク管理の適切な実施の確保や流動性リスク管理態勢について、監督します。

〔参考情報〕

当ファンドの年間騰落率及び 分配金再投資基準価額の推移



*当ファンドの年間騰落率は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算した年間騰落率が記載されていますので、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

*当ファンドの基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算した分配金再投資基準価額が記載されていますので、実際の基準価額とは異なる場合があります。

当ファンドと他の代表的な資産クラスとの 騰落率の比較



*2018年1月～2022年12月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大・最小・平均を、当ファンド及び代表的な資産クラスについて表示し、当ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものです。全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

*各資産クラスの指数

日本株…… 東証株価指数(TOPIX) (配当込み)

先進国株… MSCIコクサイ・インデックス(配当込み、円換算ベース)

新興国株… MSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込み、円換算ベース)

日本国債… FTSE日本国債インデックス

先進国債… FTSE世界国債インデックス(除く日本・円ベース)

新興国債… JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースィファイド(円ベース)

注:海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

■ TOPIX(東証株価指数)の指数値およびTOPIXに係る標章または商標は、株式会社JPX総研または株式会社JPX総研の関連会社(以下「JPX」といいます。)の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用などTOPIXに関するすべての権利・ノウハウおよびTOPIXに係る標章または商標に関するすべての権利はJPXが有します。JPXは、TOPIXの指数値の算出または公表の誤謬、遅延または中断に対し、責任を負いません。

■ 「MSCIコクサイ・インデックス」および「MSCIエマージング・マーケット・インデックス」は、MSCI Inc.が開発した指数です。同指数に対する著作権、知的所有権、その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。またMSCI Inc.は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

■ 「FTSE日本国債インデックス」および「FTSE世界国債インデックス(除く日本)」は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。

■ 「JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースィファイド(円ベース)」とは、J.P.Morgan Securities Inc.が算出し公表している指数です。当指数の著作権は、J.P.Morgan Securities Inc.に帰属します。

4【手数料等及び税金】

(1)【申込手数料】

購入時に、購入申込受付日の基準価額に対し3.3%（税抜3.0%）以内で販売会社が独自に定める購入時手数料をお支払いいただきます。

詳しくは販売会社にお問い合わせください。

*商品及び関連する投資環境の説明および情報提供等、ならびに購入に関する事務コストの対価です。

(2)【換金（解約）手数料】

かかりません。

ただし、信託財産留保額として、換金申込受付日の翌営業日の基準価額に対し0.15%を乗じた額がかかります。

(3)【信託報酬等】

信託報酬の総額は、計算期間を通じて毎日、信託財産の純資産総額に年率1.375%（税抜1.25%）を乗じて得た額とし、その配分（税抜）は次のとおりです。

*運用管理費用（信託報酬）の総額：日々のファンドの純資産総額に信託報酬率を乗じて得た額です。

	委託会社	販売会社	受託会社
	年率0.7%	年率0.5%	年率0.05%
	年率0.6%	年率0.6%	年率0.05%

(注1) 委託会社の報酬には、マザーファンドの運用の指図に関する権限の委託を受けた投資顧問会社に対する報酬が含まれます。

(注2) 信託報酬（消費税等相当額を含みます。）は、日々計上され、ファンドの基準価額に反映されます。なお、毎計算期間終了日または信託終了のとき信託財産中から支払うものとします。

(注3) 信託報酬の配分については、販売会社により と の場合があります。

*委託会社に対する報酬は、委託した資金の運用の対価です。

販売会社に対する報酬は、情報提供、各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等の対価です。

受託会社に対する報酬は、運用財産の管理、委託会社からの指図の実行の対価です。

(4)【その他の手数料等】

- a. 信託財産において一部解約に伴う支払資金の手当て等を目的として資金借入れの指図を行った場合、当該借入金の利息は信託財産中より支払います。
- b. 信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用および受託会社の立替えた立替金の利息は、受益者の負担とし、信託財産中から支払います。
- c. 信託財産にかかる監査費用（消費税等相当額込）は、年間110万円（税抜100万円）を上限として、日々計上され、ファンドの基準価額に反映されます。なお、毎計算期間終了日または信託終了のとき信託財産中から支払います。当該費用は、当ファンドより実費として間接的にご負担いただきます。また、当該費用は将来的に変更される場合があります。
- d. 当ファンドの組入有価証券等の売買の際に発生する売買委託手数料（消費税等相当額込）、デリバティブ取引等に要する費用、外貨建資産の保管等に要する費用は信託財産中より支払います。
- e. 購入から換金または償還までの間にご負担いただく費用と税金の合計額は、運用状況、資産規模および保有期間等により異なるため、事前に当該費用の金額、その上限額、計算方法を記載することはできません。

(5)【課税上の取扱い】

受益者に対する課税については、以下のような取扱いとなります。

a. 個人の受益者に対する課税

収益分配金に対する課税

普通分配金については、配当所得として課税され、20.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%および地方税5%）の税率による源泉徴収が行われ、申告不要制度が適用されます。なお、確定申告を行い、申告分離課税もしくは総合課税のいずれかを選択することもできます。

解約金または償還金に対する課税

換金（解約）時または償還時の差益（換金（解約）時または償還時の価額から購入したときの費用（購入時手数料（税込）を含みます。）を控除した利益）については、譲渡所得として、20.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%および地方税5%）の税率により、申告分離課税が適用されます。特定口座（源泉徴収あり）の利用も可能です。

損益通算について

確定申告等により、解約時および償還時の差損（譲渡損失）については、上場株式等の譲渡益、上場株式等の配当等および特定公社債等の利子所得（申告分離課税を選択したものに限りま

す。）と損益通算が可能です。また、解約時および償還時の差益（譲渡益）、普通分配金および特定公社債等の利子所得（申告分離課税を選択したものに限りま

す。）については、上場株式等の譲渡損失と損益通算が可能です。詳しくは、販売会社にお問合わせ下さい。
少額投資非課税制度「愛称：NISA（ニーサ）」、未成年者少額投資非課税制度「愛称：ジュニアNISA（ジュニアニーサ）」をご利用の場合
NISAおよびジュニアNISAは、上場株式、公募株式投資信託等に係る非課税制度です。ご利用の場合、毎年、一定額の範囲で新たに購入した公募株式投資信託などから生じる配当所得及び譲渡所得が一定期間非課税となります。販売会社で非課税口座を開設するなど、一定の条件に該当する方が対象となります。

b. 法人の受益者に対する課税

普通分配金ならびに換金（解約）時または償還時の個別元本超過額については、15.315%（所得税15%および復興特別所得税0.315%）の税率で源泉徴収されます。地方税の特別徴収はありません。

収益分配金のうち所得税法上課税対象となるのは普通分配金のみであり、元本払戻金（特別分配金）には課税されません。益金不算入制度は適用されません。

c. 個別元本について

受益者毎の信託時の受益権の価額等（購入時手数料（消費税等相当額込）は含まれません。）が当該受益者の元本（個別元本）にあたります。

受益者が同一ファンドの受益権を複数回購入した場合、個別元本は、当該受益者が追加信託を行うつど当該受益者の受益権口数で加重平均することにより算出されます。

受益者が元本払戻金（特別分配金）を受取った場合、収益分配金発生時にその個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の当該受益者の個別元本となります。

d. 収益分配金について

収益分配金には、課税扱いとなる「普通分配金」と、非課税扱いとなる「元本払戻金（特別分配金）」（受益者毎の元本の一部払戻しに相当する部分）の区分があります。受益者が収益分配金を受取る際、当該収益分配金落ち後の基準価額に対して、以下のとおりとなります。

- ・当該受益者の個別元本と同額または上回っている場合には、収益分配金の全額が普通分配金となります。
- ・当該受益者の個別元本を下回っている場合には、下回る部分の額が元本払戻金（特別分配金）、収益分配金から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が普通分配金となります。

* 外国税額控除の適用となった場合には分配時の税金が上記と異なる場合があります。

* 上記は2022年12月末日現在のもので、税法が改正された場合等には、税率等が変更になることがあります。課税上の取扱いの詳細につきましては、税務の専門家等にご確認されることをお勧めします。

5【運用状況】

(1)【投資状況】

(2022年12月30日現在)

資産の種類	国/地域	時価合計(円)	投資比率(%)
親投資信託受益証券	日本	2,619,525,138	98.58
現金・預金・その他の資産(負債控除後)		37,611,808	1.42
合計(純資産総額)		2,657,136,946	100.00

(注)投資比率は、当ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率です。

(参考) F S 海外高格付け債マザーファンド

資産の種類	国名	時価合計 (円)	投資比率 (%)
国債証券	ドイツ	2,537,875,080	20.29
	アメリカ合衆国	2,477,474,288	19.81
	イタリア	1,104,362,663	8.83
	フランス	841,777,816	6.73
	メキシコ	805,090,311	6.44
	スペイン	690,174,646	5.52
	英国	599,965,225	4.80
	オーストラリア	599,964,508	4.80
	カナダ	289,982,903	2.32
	ベルギー	282,278,617	2.26
	オランダ	237,078,150	1.90
	ノルウェー	157,828,886	1.26
	ポーランド	148,778,930	1.19
	オーストリア	124,634,827	1.00
	アイルランド	79,307,914	0.63
	フィンランド	77,359,877	0.62
ニュージーランド	69,612,971	0.56	
	小計	11,123,547,612	88.95
特殊債券	国際機関	581,404,591	4.65
	小計	581,404,591	4.65
現金・預金・その他の資産(負債控除後)		800,964,883	6.40
合計(純資産総額)		12,505,917,086	100.00

(注)各資産の時価については、2022年12月末日現在のわが国の対顧客電信売買相場の仲値により、邦貨換算しております。

投資比率は、マザーファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率です。

(2)【投資資産】

【投資有価証券の主要銘柄】

(2022年12月30日現在)

種類	銘柄名	数量	帳簿価額 単価 (円)	帳簿価額 金額 (円)	評価額 単価 (円)	評価額 金額 (円)	投資 比率 (%)
親投資信託 受益証券	F S 海外高格付け債 マザーファンド	1,159,595,015	2.3618	2,738,731,506	2.2590	2,619,525,138	98.58

(注)投資比率は、当ファンドの純資産総額に対する各銘柄の評価金額の比率です。

(参考) F S 海外高格付け債マザーファンド（評価額の上位30位銘柄）

順位	国/地域	種類	銘柄名	数量	帳簿価額 単価 (円)	帳簿価額 金額 (円)	評価額 単価 (円)	評価額 金額 (円)	利率 (%)	償還期限	投資 比率 (%)
1	ドイツ	国債証券	0.5GERMANY GVT 250215	8,939,000	13,943.06	1,246,370,505	13,567.49	1,212,798,505	0.5000	2025/2/15	9.70
2	アメリカ 合衆国	国債証券	0.375T-NOTE 250430	8,492,900	12,311.90	1,045,637,864	12,129.09	1,030,111,573	0.3750	2025/4/30	8.24
3	メキシコ	国債証券	7.75MEXICO GVT 310529	88,332,200	628.54	555,251,303	632.03	558,286,873	7.7500	2031/5/29	4.46
4	ドイツ	国債証券	GERMANY GVT 320215	4,801,200	12,067.12	579,367,042	11,353.29	545,094,297	-	2032/2/15	4.36
5	ドイツ	国債証券	GERMANY GVT 231013	3,613,000	14,070.60	508,411,892	13,899.10	502,174,559	-	2023/10/13	4.02
6	アメリカ 合衆国	国債証券	3.125T-BOND 440815	3,307,000	11,974.84	396,019,578	11,336.51	374,898,703	3.1250	2044/8/15	3.00
7	アメリカ 合衆国	国債証券	1.25T-BOND 500515	4,954,900	8,383.91	415,414,828	7,250.55	359,257,589	1.2500	2050/5/15	2.87
8	フランス	国債証券	0.5FRANCE GVT 260525	2,524,200	13,701.36	345,874,607	13,142.19	331,735,291	0.5000	2026/5/25	2.65
9	イタリア	国債証券	2.65ITALY GVT 271201	2,282,000	13,619.31	310,815,410	13,396.94	305,718,175	2.6500	2027/12/1	2.44
10	オースト ラリア	国債証券	4.75AUSTRALIA GVT 270421	3,103,000	9,432.61	292,694,096	9,357.24	290,355,239	4.7500	2027/4/21	2.32
11	イタリア	国債証券	1.65ITALY GVT 320301	2,553,000	11,998.07	306,335,987	11,280.33	287,986,997	1.6500	2032/3/1	2.30
12	アメリカ 合衆国	国債証券	0.5T-NOTE 270430	2,490,300	11,724.04	291,963,892	11,442.78	284,959,630	0.5000	2027/4/30	2.28
13	イタリア	国債証券	2.8ITALY GVT 281201	1,906,000	13,965.91	266,190,404	13,305.14	253,595,974	2.8000	2028/12/1	2.03
14	メキシコ	国債証券	10MEXICO GVT 241205	36,089,500	691.41	249,552,334	683.86	246,803,438	10.0000	2024/12/5	1.97
15	ベルギー	国債証券	0.8BELGIUM GVT 280622	1,874,400	13,548.58	253,954,619	12,787.03	239,680,179	0.8000	2028/6/22	1.92
16	オースト ラリア	国債証券	2.75AUSTRALIA GVT 271121	2,709,000	8,673.06	234,953,279	8,592.00	232,757,486	2.7500	2027/11/21	1.86
17	イタリア	国債証券	2.05ITALY GVT 270801	1,634,000	13,501.89	220,620,993	13,166.93	215,147,771	2.0500	2027/8/1	1.72
18	フランス	国債証券	FRANCE GVT 240325	1,508,800	13,960.25	210,639,652	13,687.04	206,510,180	-	2024/3/25	1.65
19	スペイン	国債証券	1.45SPAIN GVT 290430	1,587,000	13,500.48	214,252,650	12,788.52	202,953,893	1.4500	2029/4/30	1.62
20	国際機関	特殊債券	EUROPEAN UNION 260706	1,574,000	13,323.64	209,727,407	12,771.31	201,020,536	-	2026/7/6	1.61
21	カナダ	国債証券	2CANADA GVT 280601	2,046,000	9,158.58	187,400,339	9,198.80	188,207,480	2.0000	2028/6/1	1.50
22	オランダ	国債証券	0.75NETHERLANDS GVT 270715	1,387,500	13,721.17	190,381,413	13,027.60	180,758,011	0.7500	2027/7/15	1.45
23	国際機関	特殊債券	0.4EUROPEAN UNION 370204	1,806,509	10,972.41	198,217,631	9,632.43	174,010,853	0.4000	2037/2/4	1.39
24	スペイン	国債証券	SPAIN GVT 240531	1,265,000	13,837.18	175,040,335	13,600.85	172,050,816	-	2024/5/31	1.38
25	ノル ウェー	国債証券	2NORWAY GVT 230524	11,828,000	1,339.86	158,489,494	1,334.36	157,828,886	2.0000	2023/5/24	1.26
26	スペイン	国債証券	1.45SPAIN GVT 271031	1,169,000	13,709.85	160,276,604	13,138.23	153,585,955	1.4500	2027/10/31	1.23
27	ポーラ ンド	国債証券	1.75POLAND GVT 320425	7,507,000	1,964.76	147,506,441	1,981.86	148,778,930	1.7500	2032/4/25	1.19
28	英国	国債証券	4.75UK TREASURY 381207	743,700	20,806.40	154,737,196	17,390.08	129,330,024	4.7500	2038/12/7	1.03
29	国際機関	特殊債券	EUROPEAN UNION 281004	1,066,694	12,696.93	135,446,621	11,940.43	127,367,912	-	2028/10/4	1.02
30	英国	国債証券	0.625UK TREASURY 250607	819,300	15,419.20	126,336,059	14,922.32	122,258,594	0.6250	2025/6/7	0.98

(注)評価金額については、2022年12月末日現在のわが国の対顧客電信売買相場の仲値により、邦貨換算しております。

投資比率は、マザーファンドの純資産総額に対する各銘柄の評価金額の比率です。

(種類別の投資比率)

種 類	投資比率 (%)
親投資信託受益証券	98.58
合 計	98.58

(注) 投資比率は、当ファンドの純資産総額に対する種類の評価金額の比率です。

(参考) F S 海外高格付け債マザーファンド

種 類	投資比率 (%)
国債証券	88.95
特殊債券	4.65
合 計	93.60

(注) 投資比率は、マザーファンドの純資産総額に対する種類の評価金額の比率です。

【投資不動産物件】

該当事項はありません。

【その他投資資産の主要なもの】

該当事項はありません。

(参考) F S 海外高格付け債マザーファンド

資産の種類	買建/売建	通貨	数量	帳簿価額(円)	評価金額(円)	投資比率(%)
為替予約取引	買建	米ドル	49,896,835.93	7,146,898,072	6,576,283,219	52.59
		ユーロ	6,754,627.73	990,183,984	952,341,717	7.62
		オーストラリア・ドル	10,476,826.08	978,122,684	934,031,044	7.47
		ニュージーランド・ドル	8,422,386.72	725,810,750	702,633,399	5.62
		メキシコ・ペソ	76,333,809.31	550,198,619	511,520,486	4.09
		カナダ・ドル	4,166,040.75	449,873,471	405,176,207	3.24
		ノルウェー・クローネ	18,823,949.60	267,998,780	250,987,249	2.01
		ポーランド・ズロチ	6,324,386.77	194,460,020	189,187,073	1.51
		シンガポール・ドル	598,000.00	61,670,430	58,682,577	0.47
		デンマーク・クローネ	2,579,000.00	50,672,604	48,906,608	0.39
		イスラエル・シェケル	1,261,000.00	51,811,299	47,362,151	0.38
		スウェーデン・クローネ	2,623,872.55	35,442,659	33,174,669	0.27
	スターリング・ポンド	152,086.35	25,199,309	24,195,888	0.19	
	売建	ユーロ	25,772,578.74	3,750,745,247	3,633,701,645	29.06
		米ドル	17,222,113.12	2,481,736,163	2,269,833,166	18.15
		オーストラリア・ドル	15,674,286.32	1,472,329,825	1,397,395,540	11.17
		メキシコ・ペソ	144,035,867.00	1,046,908,994	965,198,747	7.72
		ニュージーランド・ドル	8,977,000.00	774,346,491	748,901,735	5.99
		スターリング・ポンド	3,710,393.98	616,115,614	590,298,078	4.72
		カナダ・ドル	4,847,979.37	525,427,520	471,499,443	3.77
		ノルウェー・クローネ	28,970,000.00	407,958,042	386,268,597	3.09
		ポーランド・ズロチ	9,576,000.00	291,181,445	286,455,506	2.29
スウェーデン・クローネ		574,000.00	7,517,919	7,257,311	0.06	
デンマーク・クローネ	330,000.00	6,402,828	6,257,922	0.05		

(注) 評価金額については、原則として為替予約の受渡日の対顧客先物売買相場の仲値で評価しております。
投資比率は、マザーファンドの純資産総額に対する通貨の評価金額の比率です。

資産の種類	国/地域	取引所	資産の名称	買建/ 売建	数量	通貨	帳簿価額(円)	評価金額(円)	投資比率 (%)
債券先 物取引	アメリカ 合衆国	シカゴ商品取 引所	US 5YR NOTE (CBT) Mar23	買建	114	米ドル	1,634,989,136	1,634,038,770	13.07
	アメリカ 合衆国	シカゴ商品取 引所	US 2YR NOTE (CBT) Mar23	買建	23	米ドル	625,065,562	626,395,835	5.01
	アメリカ 合衆国	シカゴ商品取 引所	US 10yr Ultra Fut Mar23	買建	30	米ドル	472,865,701	471,126,468	3.77
	ドイツ	ユーレック ス・ドイツ金 融先物取引所	EURO-BOBL FUTURE Mar23	買建	23	ユーロ	390,300,691	378,027,645	3.02
	ドイツ	ユーレック ス・ドイツ金 融先物取引所	EURO-BUND FUTURE Mar23	買建	17	ユーロ	321,129,967	322,244,609	2.58
	アメリカ 合衆国	シカゴ商品取 引所	US ULTRA BOND CBT Mar23	買建	6	米ドル	108,956,538	107,337,712	0.86
	アメリカ 合衆国	シカゴ商品取 引所	US 10YR NOTE (CBT)Mar23	買建	7	米ドル	104,873,070	104,443,193	0.84
	ドイツ	ユーレック ス・ドイツ金 融先物取引所	EURO-SCHATZ FUT Mar23	売建	94	ユーロ	1,420,572,230	1,403,622,899	11.22
	イタリア	ユーレック ス・ドイツ金 融先物取引所	Euro-BTP Future Mar23	売建	46	ユーロ	750,584,929	716,098,502	5.73
	フランス	ユーレック ス・ドイツ金 融先物取引所	Euro-OAT Future Mar23	売建	33	ユーロ	640,220,645	599,716,794	4.80
英国	ICEフュー チャーズ・ ヨーロッパ	LONG GILT FUTURE Mar23	売建	2	スター リング・ポ ンド	33,397,968	31,932,800	0.26	
カナダ	モントリオ ール取引所	CAN 10YR BOND FUT Mar23	売建	2	カナダ・ ドル	24,563,880	24,043,741	0.19	

(注) 評価金額については、原則として2022年12月末日現在に知りうる直近の日の主たる取引所の発表する清算値段または最終相場で評価しており、2022年12月末日現在のわが国の対顧客電信売買相場の仲値により、邦貨換算しております。

投資比率は、マザーファンドの純資産総額に対する資産の評価金額の比率です。

(3) 【運用実績】

【純資産の推移】

2022年12月末日および同日前1年以内における各月末ならびに下記計算期間終了日の純資産の推移は次の通りです。

	純資産総額(百万円)		1口当たりの純資産額(円)	
	分配落ち	分配付き	分配落ち	分配付き
29期 (2013年6月10日)	2,848	2,879	1.2012	1.2142
30期 (2013年12月10日)	2,898	2,918	1.2703	1.2793
31期 (2014年6月10日)	2,910	2,937	1.3004	1.3124
32期 (2014年12月10日)	3,275	3,309	1.4701	1.4851
33期 (2015年6月10日)	3,139	3,156	1.4306	1.4386
34期 (2015年12月10日)	3,065	3,078	1.3956	1.4016
35期 (2016年6月10日)	2,794	2,805	1.2778	1.2828
36期 (2016年12月12日)	2,806	2,817	1.2677	1.2727
37期 (2017年6月12日)	2,688	2,699	1.2582	1.2632
38期 (2017年12月11日)	2,824	2,841	1.3170	1.3250
39期 (2018年6月11日)	2,673	2,683	1.2346	1.2396
40期 (2018年12月10日)	2,744	2,762	1.2496	1.2576
41期 (2019年6月10日)	2,763	2,774	1.2562	1.2612
42期 (2019年12月10日)	2,765	2,776	1.2606	1.2656
43期 (2020年6月10日)	2,864	2,875	1.3094	1.3144
44期 (2020年12月10日)	2,819	2,830	1.3128	1.3178
45期 (2021年6月10日)	2,845	2,856	1.3278	1.3328
46期 (2021年12月10日)	2,782	2,793	1.3292	1.3342
47期 (2022年6月10日)	2,764	2,774	1.3493	1.3543
48期 (2022年12月12日)	2,772	2,782	1.3352	1.3402
2021年12月末日	2,812	-	1.3363	-
2022年1月末日	2,747	-	1.3152	-
2022年2月末日	2,673	-	1.2929	-
2022年3月末日	2,769	-	1.3332	-
2022年4月末日	2,774	-	1.3372	-
2022年5月末日	2,737	-	1.3313	-
2022年6月末日	2,784	-	1.3555	-
2022年7月末日	2,826	-	1.3706	-
2022年8月末日	2,790	-	1.3538	-
2022年9月末日	2,773	-	1.3401	-
2022年10月末日	2,868	-	1.3744	-
2022年11月末日	2,784	-	1.3393	-
2022年12月末日	2,657	-	1.2770	-

【分配の推移】

	1口当たり分配金(円)
29期	0.0130
30期	0.0090
31期	0.0120
32期	0.0150
33期	0.0080
34期	0.0060
35期	0.0050
36期	0.0050
37期	0.0050
38期	0.0080
39期	0.0050
40期	0.0080
41期	0.0050
42期	0.0050
43期	0.0050
44期	0.0050
45期	0.0050
46期	0.0050
47期	0.0050
48期	0.0050

【収益率の推移】

	収益率(%)
29期	18.3
30期	6.5
31期	3.3
32期	14.2
33期	2.1
34期	2.0
35期	8.1
36期	0.4
37期	0.4
38期	5.3
39期	5.9
40期	1.9
41期	0.9
42期	0.7
43期	4.3
44期	0.6
45期	1.5
46期	0.5
47期	1.9
48期	0.7

(4) 【設定及び解約の実績】

(単位：口)

	追加設定口数	一部解約口数	発行済口数
29期	185,123,062	322,323,300	2,371,352,220
30期	159,647,518	249,288,180	2,281,711,558
31期	137,134,050	180,813,816	2,238,031,792
32期	169,524,629	179,201,107	2,228,355,314
33期	150,003,414	183,953,246	2,194,405,482
34期	139,700,252	137,744,837	2,196,360,897
35期	112,017,979	121,358,968	2,187,019,908
36期	135,851,420	109,044,072	2,213,827,256
37期	144,401,879	221,126,617	2,137,102,518
38期	142,852,550	135,497,034	2,144,458,034
39期	147,499,665	126,739,836	2,165,217,863
40期	151,807,229	120,521,029	2,196,504,063
41期	139,357,903	135,655,823	2,200,206,143
42期	141,976,876	148,286,549	2,193,896,470
43期	201,633,004	207,857,738	2,187,671,736
44期	186,141,512	226,170,123	2,147,643,125
45期	178,759,763	183,098,103	2,143,304,785
46期	115,539,913	165,184,057	2,093,660,641
47期	123,616,652	168,320,429	2,048,956,864
48期	146,251,321	118,992,077	2,076,216,108

(注) 追加設定口数、一部解約口数はすべて本邦内におけるものです。

< 参考情報 >

運用実績

2022年12月末日現在

基準価額・純資産の推移



※基準価額(分配金再投資)とは、分配金(税引前)を分配時に再投資したとみなした価額です。

分配金の推移

基準価額	純資産総額
12,770円	26.57億円

	決算日	分配金
第44期	2020年12月	50円
第45期	2021年6月	50円
第46期	2021年12月	50円
第47期	2022年6月	50円
第48期	2022年12月	50円
設定来累計		2,910円

※上記分配金は一万口当たり、税引前です。

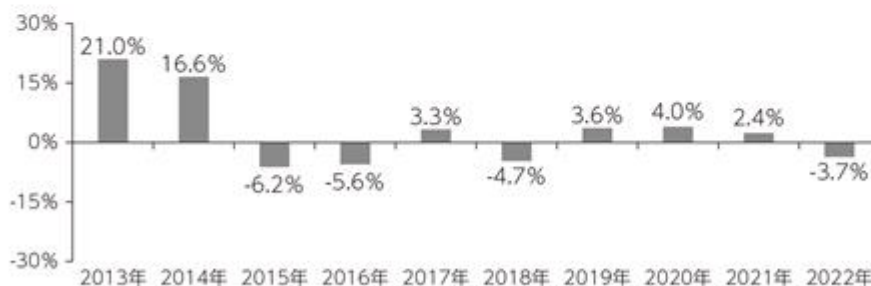
主要な資産の状況

組入上位10銘柄

銘柄名	国/地域	種類	通貨	償還日	利率	格付	実質投資比率
1 GERMANY GVT	ドイツ	国債	EUR	2025/2/15	0.500%	AAA	9.6%
2 T-NOTE	アメリカ	国債	USD	2025/4/30	0.375%	AAA	8.1%
3 MEXICO GVT	メキシコ	国債	MXN	2031/5/29	7.750%	BBB	4.4%
4 GERMANY GVT	ドイツ	国債	EUR	2032/2/15	0.000%	AAA	4.3%
5 GERMANY GVT	ドイツ	国債	EUR	2023/10/13	0.000%	AAA	4.0%
6 T-BOND	アメリカ	国債	USD	2044/8/15	3.125%	AAA	3.0%
7 T-BOND	アメリカ	国債	USD	2050/5/15	1.250%	AAA	2.8%
8 FRANCE GVT	フランス	国債	EUR	2026/5/25	0.500%	AA	2.6%
9 ITALY GVT	イタリア	国債	EUR	2027/12/1	2.650%	BBB	2.4%
10 AUSTRALIA GVT	オーストラリア	国債	AUD	2027/4/21	4.750%	AAA	2.3%

※実質投資比率は、マザーファンドの投資比率に基づき算出した実質ベースの数値です。

年間収益率の推移(暦年ベース)



※当ファンドの年間収益率は、分配金(税引前)を再投資して算出しております。

・上記のデータは過去の実績であり、将来の運用成果を示唆・保証するものではありません。
 ・最新の運用実績の一部は、委託会社のホームページで閲覧できます。

第2【管理及び運営】

1【申込（販売）手続等】

a．購入申込方法

午後3時までに購入申込みが行われ、かつ当該購入申込みの受付にかかる販売会社所定の事務手続きが完了したものを当日の申込受付分とします。なお、販売会社の営業日であっても、申込不可日には購入申込みの受付は行いません。

（後記「申込不可日」をご参照ください。）

当ファンドは、収益の分配がなされた場合、分配金が税引き後無手数料で再投資される「自動けいぞく投資」専用ファンドです。そのため、当該販売会社との間で「自動けいぞく投資約款」^{*}にしたがって契約を締結します。

^{*}販売会社によっては、当該契約または規定については、同様の権利義務関係を規定する名称の異なる契約または規定を使用することがあり、この場合、当該別の名称に読替えるものとします。

当ファンドは、販売会社によって「定時定額購入サービス」^{*}等を選択できる場合があります。「定時定額購入サービス」等に関する契約等を販売会社と取交わした場合、当該契約等で規定する申込みの方法によるものとします。

^{*}他の名称で同様の権利義務関係を規定する名称の異なる契約または規定を使用することがあり、この場合、当該別の名称に読替えるものとします。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

b．申込単位

申込単位（購入単位）は、販売会社が定めるものとします。

収益分配金を再投資する場合は1口単位とします。

確定拠出年金制度に基づく申込みは1円以上1円単位とします。

販売会社との間で「定時定額購入サービス」等に関する契約等を取交わした場合、当該契約等で規定する単位とします。

c．購入価額

購入申込受付日の翌営業日の基準価額とします。

d．購入代金支払日

販売会社が別に定める日までに購入代金を販売会社に支払うものとします。

e．購入申込時の振替口座簿について

購入申込者は販売会社に、購入申込みと同時にまたはあらかじめ、自己のために開設されたファンドの受益権の振替を行うための振替機関等の口座を示すものとし、当該口座に当該購入申込者に係る口数の増加の記載または記録が行われます。なお、販売会社は、当該購入代金の支払いと引き換えに、当該口座に当該購入申込者に係る口数の増加の記載または記録を行うことができます。委託会社は、追加信託により分割された受益権について、振替機関等の振替口座簿への新たな記載または記録をするため社振法に定める事項の振替機関への通知を行うものとします。振替機関等は、委託会社から振替機関への通知があった場合、社振法の規定にしたがい、その備える振替口座簿への新たな記載または記録を行います。受託会社は、追加信託により生じた受益権については追加信託のつど、振替機関の定める方法により、振替機関へ当該受益権に係る信託を設定した旨の通知を行います。

2【換金（解約）手続等】

a．換金方法

午後3時までに換金申込みが行われ、かつ当該申込みの受付にかかる販売会社所定の事務手続きが完了したものを当日の申込受付分とします。なお、販売会社の営業日であっても、申込不可日には換金申込みの受付は行いません。

（後記「申込不可日」をご参照ください。）

b．換金単位

1口単位とします。

c．換金価額

換金申込受付日の翌営業日の基準価額から、当該基準価額に0.15%の率を乗じて得た信託財産留保額^{*}を差し引いた額とします。

^{*}「信託財産留保額」とは、信託期間終了前の換金に対し、換金する投資家から徴収する一定の金額をいい、信託財産に繰入れられます。これは、運用の安定性を高めるとともに、信託期間の途中で換金する投資家と償還時まで保有する投資家との公平性を確保する目的で導入されています。

d. 換金における制限

信託財産の資金管理を円滑に行うため、ファンドの残高減少、市場の流動性の状況等によっては、委託会社の判断により、一定の金額を超える換金の金額に制限を設ける場合や一定の金額を超える換金申込みの受付時間に制限を設ける場合があります。

e. 換金代金支払日

原則として換金申込受付日より5営業日目から販売会社において支払います。

f. 換金時の振替口座簿について

換金申込みを行う受益者は、その口座が開設されている振替機関等に対して当該受益者の申込みに係るこの信託契約の一部解約を委託会社が行うのと引き換えに、当該一部解約に係る受益権の口数と同口数の抹消の申請を行うものとし、社振法の規定にしたがい当該振替機関等の口座において当該口数の減少の記載または記録が行われます。

「申込不可日」

販売会社の営業日であっても、ロンドンまたはニューヨークの証券取引所または銀行が休業日には、購入および換金の申込みの受け付けは行いません。

詳しくは販売会社にお問い合わせください。

3【資産管理等の概要】

(1)【資産の評価】

a. 基準価額とは、信託財産に属する資産（受入担保金代用有価証券を除きます。）を法令および一般社団法人投資信託協会規則にしたがって時価評価して得た信託財産の資産総額から負債総額を控除した金額（「純資産総額」といいます。）を計算日における受益権総口数で除した金額をいいます。なお、外貨建資産（外国通貨表示の有価証券、預金、その他の資産をいいます。）の円換算については、原則として、わが国における計算日の対顧客電信売買相場の仲値によって計算します。また、外国予約為替の評価は、原則として、わが国における計算日の対顧客先物売買相場の仲値によるものとします。

b. 基準価額は毎営業日に計算し、原則として、翌日の日本経済新聞（朝刊）の「オープン基準価格」欄の〔アバディーン〕に、「F S 高格債 B」として掲載されます。また、販売会社または次の照会先でもお知らせいたします。なお、当ファンドの基準価額は、便宜上、1万口単位で表示されています。

〔照会先〕 アバディーン・ジャパン株式会社

お問い合わせ窓口 03-4578-2251

（受付時間は営業日の午前9時から午後5時までです。）

インターネット・ホームページ <https://www.abrdn.com/ja-jp/investor>

c. 追加信託金は、追加信託を行う日の前営業日の基準価額に当該追加信託にかかる受益権の口数を乗じた額とします。

d. 収益分配金、償還金および一部解約金にかかる収益調整金^{*1}は、原則として、受益者毎の信託時の受益権の価額等^{*2}に応じて計算されるものとします。

*1 「収益調整金」は、所得税法施行令第27条の規定によるものとし、受益者毎の信託時の受益権の価額と元本との差額をいい、原則として、追加設定のつど当該口数により加重平均され、収益分配のつど調整されるものとします。

*2 「受益者毎の信託時の受益権の価額等」とは、原則として、受益者毎の信託時の受益権の価額をいい、追加信託のつど当該口数により加重平均され、収益分配のつど調整されるものとします。

(2)【保管】

該当事項はありません。

(3)【信託期間】

無期限です。

ただし、「(5)その他 a. 償還条件」に該当する場合は、信託契約を解約し信託を終了させることができます。

(4) 【計算期間】

原則として毎年6月11日から12月10日までおよび12月11日から翌年6月10日までとします。

ただし、計算期間終了日が休業日の場合は、計算期間終了日は翌営業日とします。

また、最終計算期間終了日は、信託期間の終了日とします。

(5) 【その他】**a. 償還条件**

委託会社は、信託契約の一部を解約することにより、残存口数が10億口を下回ることとなった場合には、受託会社と合意のうえ、 の手続きにしたがって、この信託を終了させることができます。

委託会社は、信託期間中において、この信託契約を解約することが受益者のため有利であると認めるとき、またはやむを得ない事情が発生したときは、受託会社と合意のうえ、この信託契約を解約し、信託を終了させることができます。この場合において、委託会社は、あらかじめ、解約しようとする旨を監督官庁に届出ます。委託会社は、監督官庁に届出する前に、解約しようとする旨を公告し、かつ、その旨を記載した書面を当ファンドの受益者に対して交付します。ただし、すべての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。

に規定する公告および書面には、異議のある受益者は一定の期間内に委託会社に対して異議を述べるべき旨を付記します。なお、一定の期間は一月を下らないものとし、その期間内に異議を述べた受益者の受益権の口数が受益権の総口数の二分の一を超えるときは、信託契約の解約をしません。信託契約の解約をしないこととしたときは、解約しない旨およびその理由を公告し、かつ、これらの事項を記載した書面を知られたる受益者に対して交付します。ただし、すべての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。

なお、信託財産の状態に照らし、真にやむを得ない事情が生じている場合であって、上記の一定の期間が一月を下らずにその公告および書面の交付を行うことが困難な場合には、当該手続きは適用されません。

委託会社は、監督官庁よりこの信託契約の解約の命令を受けたときは、その命令にしたがい、信託契約を解約し信託を終了させます。

委託会社が監督官庁より登録の取消しを受けたとき、解散したときまたは業務を廃止したときは、委託会社は、この信託契約を解約し、信託を終了させます。ただし、監督官庁が、この信託契約に関する委託会社の業務を他の投資信託委託会社に引継ぐことを命じたときは、この信託は、後述の「b. 信託約款の変更」において信託約款の変更をしないこととした場合を除き、当該投資信託委託会社と受託会社との間において存続します。

受託会社は、委託会社の承諾を受けてその任務を辞任することができます。この場合、委託会社は、信託約款の規定にしたがい、新受託会社を選任します。委託会社が新受託会社を選任できないときは、委託会社はこの信託約款を解約し、信託を終了させます。

b. 信託約款の変更

委託会社は、受益者の利益のため必要と認めるとき、またはやむを得ない事情が発生したときは、受託会社と合意のうえ、この信託約款を変更することができるものとし、あらかじめ、変更しようとする旨およびその内容を監督官庁に届出ます。

委託会社は、変更事項のうち、その内容が重大なものについて、監督官庁に届出する前に、変更しようとする旨およびその内容を公告し、かつ、これらの事項を記載した書面を当ファンドの受益者に対して交付します。ただし、すべての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。

に規定する公告および書面には、異議のある受益者は一定の期間内に委託会社に対して異議を述べるべき旨を付記します。なお、一定の期間は一月を下らないものとし、その期間内に異議を述べた受益者の受益権の口数が受益権の総口数の二分の一を超えるときは、信託約款の変更をしません。信託約款の変更をしないこととしたときは、変更しない旨およびその理由を公告し、かつ、これらの事項を記載した書面を知られたる受益者に対して交付します。ただし、すべての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。

監督官庁の命令に基づいて、信託約款を変更する場合は、上記 から の手続きにしたがいま

c. 公告

日本経済新聞に掲載します。

d. 運用報告書

・委託会社は、計算期間終了時および償還時に運用経過のほか信託財産の内容、有価証券売買状況、費用明細などのうち重要な事項を記載した交付運用報告書を作成し、受益者に対し、販売会社を通じて交付します。

- ・委託会社は、運用報告書（全体版）を作成し、委託会社のホームページに掲載します。
インターネット・ホームページ：<https://www.abrdn.com/ja-jp/investor>
上記にかかわらず、受益者から運用報告書（全体版）の交付の請求があった場合には、これを交付します。
- e. 関係法人との契約の更新等に関する手続
委託会社が販売会社に委託するファンドの募集・販売に関する業務の内容、一部解約に関する事務の内容、およびこれらに関する手続き等についての契約の有効期間は1年間とし、期間満了の3ヵ月前までに委託会社、販売会社いずれからも別段の意思表示のないときは、自動的に1年間延長され、自動延長後の取扱いについてもこれと同様とします。
- f. 委託会社の事業譲渡および承継に伴う取扱い
委託会社は、事業の全部または一部を譲渡することがあり、これに伴い、この信託契約に関する事業を譲渡することがあります。また、委託会社は、分割により事業の全部または一部を承継させることがあり、これに伴い、この信託契約に関する事業を承継させることがあります。
- g. 反対者の買取請求権
信託契約の解約または信託約款の重大な変更を行う場合において、一定の期間内に委託会社に対して異議を述べた受益者は、受託会社に対し、自己に帰属する受益権を、信託財産をもって買取るべき旨を請求することができます。

4【受益者の権利等】

受益者の有する主な権利は次の通りです。

- a. 収益分配金に対する請求権
自動けいぞく投資契約に基づいて収益分配金を再投資する受益者に対しては、受託会社が委託会社の指定する預金口座等に払い込むことにより、原則として毎計算期間終了日の翌営業日に収益分配金が販売会社に支払われます。この場合、販売会社は、受益者に対し遅滞なく収益分配金の再投資にかかる受益権の売付けを行います。再投資により増加した受益権は、振替口座簿に記載または記録されます。
ただし、受益者が、収益分配金について支払開始日から5年間その支払いを請求しないときは、その権利を失い、受託会社から交付を受けた金銭は委託会社に帰属します。
- b. 償還金に対する請求権
受益者は、持分に応じて償還金を請求する権利を有します。
償還金は、信託終了日後1ヵ月以内の委託会社の指定する日（原則として信託終了日から起算して5営業日）までに信託終了日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者（信託終了日以前において一部解約が行われた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該信託終了日以前に設定された受益権で購入代金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として購入申込者とし、）に支払いを開始します。なお、当該受益者は、その口座が開設されている振替機関等に対して委託会社がこの信託の償還をするのと引き換えに、当該償還にかかる受益権の口数と同口数の抹消の申請を行うものとし、社振法の規定に従い当該振替機関等の口座において当該口数の減少の記載または記録が行われます。償還金の支払いは、販売会社の営業所等において行うものとし、
ただし、受益者が、償還金について支払開始日から10年間その支払いを請求しないときは、その権利を失い、受託会社から交付を受けた金銭は委託会社に帰属します。
- c. 一部解約（換金）請求権
受益者は、自己に帰属する受益権について、委託会社に一部解約（換金）の実行を請求する権利を有します。
- d. 帳簿書類の閲覧・謄写の請求権
受益者は委託会社に対し、当該受益者にかかる信託財産に関する書類の閲覧または謄写を請求することができます。

第3【ファンドの経理状況】

- (1)当ファンドの財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）並びに同規則第2条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）に基づき作成しております。
なお、財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しています。
- (2)当ファンドの計算期間は6ヵ月であるため、財務諸表は6ヵ月毎に作成しています。
- (3) 2022年9月10日をもって、ファンド名称を「[アバディーン・スタンダード・ファンド・セクション] 海外高格付け債ファンド Bコース（為替ヘッジなし）」から「[アバディーン・ファンド・セクション] 海外高格付け債ファンド Bコース（為替ヘッジなし）」に変更しました。
- (4)当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第48期計算期間（2022年6月11日から2022年12月12日まで）の財務諸表について、PwCあらた有限責任監査法人による監査を受けています。

1【財務諸表】

【[アバディーン・ファンド・セレクション] 海外高格付け債ファンド Bコース（為替ヘッジなし）】

(1)【貸借対照表】

(単位：円)

	第47期 (2022年6月10日現在)	第48期 (2022年12月12日現在)
資産の部		
流動資産		
コール・ローン	72,420,828	64,409,508
親投資信託受益証券	2,725,678,653	2,738,731,506
流動資産合計	2,798,099,481	2,803,141,014
資産合計	2,798,099,481	2,803,141,014
負債の部		
流動負債		
未払収益分配金	10,244,784	10,381,080
未払解約金	4,140,832	871,498
未払受託者報酬	753,503	779,686
未払委託者報酬	18,084,007	18,712,314
未払利息	188	167
その他未払費用	220,000	220,000
流動負債合計	33,443,314	30,964,745
負債合計	33,443,314	30,964,745
純資産の部		
元本等		
元本	2,048,956,864	2,076,216,108
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金（ ）	715,699,303	695,960,161
（分配準備積立金）	221,752,543	202,939,634
元本等合計	2,764,656,167	2,772,176,269
純資産合計	2,764,656,167	2,772,176,269
負債純資産合計	2,798,099,481	2,803,141,014

(2) 【損益及び剰余金計算書】

(単位：円)

	第47期 自 2021年12月11日 至 2022年 6 月10日	第48期 自 2022年 6 月11日 至 2022年12月12日
営業収益		
有価証券売買等損益	69,345,646	52,853
営業収益合計	69,345,646	52,853
営業費用		
支払利息	20,482	23,552
受託者報酬	753,503	779,686
委託者報酬	18,084,007	18,712,314
その他費用	220,000	220,000
営業費用合計	19,077,992	19,735,552
営業利益又は営業損失()	50,267,654	19,682,699
経常利益又は経常損失()	50,267,654	19,682,699
当期純利益又は当期純損失()	50,267,654	19,682,699
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部解約に伴う当期純損失金額の分配額()	1,677,749	127,717
期首剰余金又は期首欠損金()	689,147,104	715,699,303
剰余金増加額又は欠損金減少額	39,923,171	51,568,024
当期追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	39,923,171	51,568,024
剰余金減少額又は欠損金増加額	55,071,591	41,371,104
当期一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	55,071,591	41,371,104
分配金	10,244,784	10,381,080
期末剰余金又は期末欠損金()	715,699,303	695,960,161

(3) 【注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法	親投資信託受益証券 移動平均法に基づき、時価で評価しております。時価評価にあたっては法令および一般社団法人投資信託協会規則にしたがって評価するものとし ます。
2. その他財務諸表作成のための基礎となる事項	当ファンドの計算期間は原則として、毎年12月11日から6月10日まで及び、6月11日から12月10日までとなっております。ただし、各計算期間終了日に該当する日（以下「該当日」といいます。）が休業日のとき、各計算期間終了日は、該当日以降の営業日である日のうち、該当日に最も近い日とし、その翌日より次の計算期間が始まるものとしたしますので、当計算期間は2022年6月11日から2022年12月12日までとなっております。

(重要な会計上の見積りに関する注記)

第47期 自 2021年12月11日 至 2022年6月10日	第48期 自 2022年6月11日 至 2022年12月12日
当計算期間の財務諸表の作成にあたって行った会計上の見積りが当計算期間の翌計算期間の財務諸表に重要な影響を及ぼすリスクは識別していないため、注記を省略しております。	同左

(貸借対照表に関する注記)

期別	第47期 2022年6月10日現在	第48期 2022年12月12日現在
1. 投資信託財産に係る期首元本額、期中追加設定元本額および期中一部解約元本額		
期首元本額	2,093,660,641円	2,048,956,864円
期中追加設定元本額	123,616,652円	146,251,321円
期中一部解約元本額	168,320,429円	118,992,077円
2. 受益権の総数	2,048,956,864口	2,076,216,108口

（損益及び剰余金計算書に関する注記）

第47期 自 2021年12月11日 至 2022年6月10日	第48期 自 2022年6月11日 至 2022年12月12日																																				
<p>1.投資信託財産の運用の指図に係る権限の全部または一部を委託するために要する費用として委託者報酬の中から支弁している額 委託者報酬のうち、販売会社へ支払う手数料を除いた額より、運用権限委託契約に定められた報酬額を支払っております。</p> <p>2.分配金の計算過程</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">費用控除後の配当等収益額</td> <td style="text-align: right;">13,491,799円</td> </tr> <tr> <td>費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額</td> <td style="text-align: right;">0円</td> </tr> <tr> <td>収益調整金額</td> <td style="text-align: right;">1,070,172,099円</td> </tr> <tr> <td>分配準備積立金額</td> <td style="text-align: right;">218,505,528円</td> </tr> <tr> <td>当ファンドの分配対象収益額</td> <td style="text-align: right;">1,302,169,426円</td> </tr> <tr> <td>当ファンドの期末残存口数</td> <td style="text-align: right;">2,048,956,864口</td> </tr> <tr> <td>10,000口当たり収益分配対象額</td> <td style="text-align: right;">6,355円</td> </tr> <tr> <td>10,000口当たり分配金額</td> <td style="text-align: right;">50円</td> </tr> <tr> <td>収益分配金金額</td> <td style="text-align: right;">10,244,784円</td> </tr> </table>	費用控除後の配当等収益額	13,491,799円	費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	0円	収益調整金額	1,070,172,099円	分配準備積立金額	218,505,528円	当ファンドの分配対象収益額	1,302,169,426円	当ファンドの期末残存口数	2,048,956,864口	10,000口当たり収益分配対象額	6,355円	10,000口当たり分配金額	50円	収益分配金金額	10,244,784円	<p>1.投資信託財産の運用の指図に係る権限の全部または一部を委託するために要する費用として委託者報酬の中から支弁している額 同左</p> <p>2.分配金の計算過程</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">費用控除後の配当等収益額</td> <td style="text-align: right;">3,769,101円</td> </tr> <tr> <td>費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額</td> <td style="text-align: right;">0円</td> </tr> <tr> <td>収益調整金額</td> <td style="text-align: right;">1,100,032,224円</td> </tr> <tr> <td>分配準備積立金額</td> <td style="text-align: right;">209,551,613円</td> </tr> <tr> <td>当ファンドの分配対象収益額</td> <td style="text-align: right;">1,313,352,938円</td> </tr> <tr> <td>当ファンドの期末残存口数</td> <td style="text-align: right;">2,076,216,108口</td> </tr> <tr> <td>10,000口当たり収益分配対象額</td> <td style="text-align: right;">6,325円</td> </tr> <tr> <td>10,000口当たり分配金額</td> <td style="text-align: right;">50円</td> </tr> <tr> <td>収益分配金金額</td> <td style="text-align: right;">10,381,080円</td> </tr> </table>	費用控除後の配当等収益額	3,769,101円	費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	0円	収益調整金額	1,100,032,224円	分配準備積立金額	209,551,613円	当ファンドの分配対象収益額	1,313,352,938円	当ファンドの期末残存口数	2,076,216,108口	10,000口当たり収益分配対象額	6,325円	10,000口当たり分配金額	50円	収益分配金金額	10,381,080円
費用控除後の配当等収益額	13,491,799円																																				
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	0円																																				
収益調整金額	1,070,172,099円																																				
分配準備積立金額	218,505,528円																																				
当ファンドの分配対象収益額	1,302,169,426円																																				
当ファンドの期末残存口数	2,048,956,864口																																				
10,000口当たり収益分配対象額	6,355円																																				
10,000口当たり分配金額	50円																																				
収益分配金金額	10,244,784円																																				
費用控除後の配当等収益額	3,769,101円																																				
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	0円																																				
収益調整金額	1,100,032,224円																																				
分配準備積立金額	209,551,613円																																				
当ファンドの分配対象収益額	1,313,352,938円																																				
当ファンドの期末残存口数	2,076,216,108口																																				
10,000口当たり収益分配対象額	6,325円																																				
10,000口当たり分配金額	50円																																				
収益分配金金額	10,381,080円																																				

（金融商品に関する注記）

金融商品の状況に関する事項

項目	期別 第47期 自 2021年12月11日 至 2022年6月10日	第48期 自 2022年6月11日 至 2022年12月12日
1.金融商品に対する取組方針	当ファンドは証券投資信託であり、金融商品を投資対象とし、信託約款に定める「運用の基本方針」に基づき運用を行っております。	同左
2.金融商品の内容及びリスク	当ファンドは親投資信託受益証券を主要投資対象として運用を行うため、当該親投資信託受益証券にかかるリスクは、当ファンドに影響を及ぼします。 投資対象とする金融商品は、金利変動、為替変動等に伴う市場リスク、信用リスク及び流動性リスクに晒されております。	同左
3.金融商品に係るリスクの管理体制	委託会社では、取締役会が決定したリスク管理に関するリスク・マネジメント・ポリシーに基づき、ファンドのパフォーマンス、運用リスクの分析管理、その他各種リスクの管理を、運用部から独立したリスク管理部門が行っております。また、定期的に投資委員会を開催し、各プロダクトのパフォーマンスとそのリスクの管理・分析に関する審議を行っております。	同左

金融商品の時価等に関する事項

項目	期別	第47期 2022年6月10日現在	第48期 2022年12月12日現在
1. 貸借対照表計上額、時価及びその差額		貸借対照表計上額は原則として期末の時価で計上しているため、その差額はありません。	同左
2. 時価の算定方法		(1) 有価証券 売買目的有価証券 重要な会計方針に係る事項に関する注記「有価証券の評価基準及び評価方法」に記載しております。 (2) 有価証券以外の金融商品 有価証券以外の金融商品については、短期間で決済され、時価は帳簿価額と近似しているため、当該帳簿価額を時価としております。	(1) 有価証券 売買目的有価証券 同左 (2) 有価証券以外の金融商品 同左
3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明		金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。	同左
4. 金銭債権及び満期のある有価証券（売買目的有価証券を除く。）の決算日後の償還予定額		貸借対照表に計上している金銭債権はその全額が1年以内に償還されます。	同左

(有価証券に関する注記)

第47期(2022年6月10日現在)

売買目的有価証券

(単位：円)

種類	当計算期間の損益に含まれた評価差額
親投資信託受益証券	69,832,962
合計	69,832,962

第48期(2022年12月12日現在)

売買目的有価証券

(単位：円)

種類	当計算期間の損益に含まれた評価差額
親投資信託受益証券	347,879
合計	347,879

(デリバティブ取引等に関する注記)

取引の時価等に関する事項

該当事項はありません。

(関連当事者との取引に関する注記)

第47期 自 2021年12月11日 至 2022年6月10日	第48期 自 2022年6月11日 至 2022年12月12日
該当事項はありません。	同左

(1口当たり情報に関する注記)

第47期 2022年6月10日現在		第48期 2022年12月12日現在	
1口当たり純資産額	1.3493円	1口当たり純資産額	1.3352円
(1万口当たり純資産額	13,493円)	(1万口当たり純資産額	13,352円)

(4)【附属明細表】

第1 有価証券明細表

(1)株式

該当事項はありません。

(2)株式以外の有価証券

(単位：円)

種類	銘柄	券面総額	評価額	備考
親投資信託 受益証券	F S 海外高格付け債マザーファンド	1,159,595,015	2,738,731,506	
合計		1,159,595,015	2,738,731,506	

(注1)券面総額欄の数値は、口数を表示しております。

第2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額及び時価の状況表

該当事項はありません。

（参考）

当ファンドは「F S 海外高格付け債マザーファンド」受益証券を主要投資対象としており、貸借対照表の資産の部に計上された「親投資信託受益証券」は、すべて同ファンドの受益証券です。なお、同ファンドの状況は、次のとおりです。

F S 海外高格付け債マザーファンドの状況

以下に記載した情報は監査の対象外です。

貸借対照表

（単位：円）

	2022年6月10日現在	2022年12月12日現在
資産の部		
流動資産		
預金	65,153,319	72,989
コール・ローン	156,737,192	111,529,831
国債証券	12,192,798,978	11,913,113,770
特殊債券	648,744,440	619,495,794
派生商品評価勘定	435,562,041	440,152,282
未収利息	25,251,655	37,373,470
前払費用	3,438,832	3,663,537
差入委託証拠金	425,050,141	490,352,743
流動資産合計	13,952,736,598	13,615,754,416
資産合計	13,952,736,598	13,615,754,416
負債の部		
流動負債		
派生商品評価勘定	478,450,277	540,544,516
未払利息	407	290
流動負債合計	478,450,684	540,544,806
負債合計	478,450,684	540,544,806
純資産の部		
元本等		
元本	5,706,045,620	5,536,062,461
剰余金		
剰余金又は欠損金（ ）	7,768,240,294	7,539,147,149
元本等合計	13,474,285,914	13,075,209,610
純資産合計	13,474,285,914	13,075,209,610
負債純資産合計	13,952,736,598	13,615,754,416

（注）「F S 海外高格付け債マザーファンド」の計算期間は、毎年6月11日から翌年6月10日までであり、本報告書における開示対象ファンドの計算期間とは異なります。上記の貸借対照表は、2022年6月10日および2022年12月12日における同ファンドの状況です。

注記表

（重要な会計方針に係る事項に関する注記）

1. 有価証券の評価基準及び評価方法	<p>株式は移動平均法、株式以外の有価証券は個別法に基づき、以下のとおり原則として時価で評価しております。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・金融商品取引所に上場されている有価証券 金融商品取引所に上場されている有価証券は、原則として金融商品取引所における計算期間末日の最終相場（外貨建証券の場合は計算期間末日において知りうる直近の最終相場）で評価しています。計算期間末日に当該金融商品取引所の最終相場がない場合には、当該金融商品取引所における直近の日の最終相場で評価していますが、直近の日の最終相場によることが適当でない認められた場合は、当該金融商品取引所における計算期間末日又は直近の日の気配相場で評価しています。 ・金融商品取引所に上場されていない有価証券 当該有価証券については、原則として、日本証券業協会発表の売買参考統計値（平均値）、金融機関の提示する価額（ただし、売気配相場は使用しない）又は価格提供会社の提供する価額のいずれかから入手した価額で評価しています。 ・時価が入手できなかった有価証券 適正な評価額を入手できなかった場合又は入手した評価額が時価と認定できない事由が認められた場合は、投資信託委託会社が忠実義務に基づいて合理的事由をもって時価と認めた価額もしくは受託者と協議のうえ両者が合理的事由をもって時価と認めた価額で評価しています。
2. デリバティブ等の評価基準及び評価方法	<p>(1) 先物取引 個別法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、原則として計算期間末日に知りうる直近の主たる取引所の発表する清算値段又は最終相場によっております。</p> <p>(2) 為替予約取引 個別法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、原則として、わが国における計算期間末日の対顧客先物売買相場の仲値によって計算しております。</p>
3. その他財務諸表作成のための基礎となる事項	<p>外貨建取引等の処理基準 外貨建取引については、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）第60条に基づき、取引発生時の外国通貨の額をもって記録する方法を採用しております。但し、同第61条に基づき、外国通貨の売却時において、当該外国通貨に加えて、外貨建資産等の外貨基金勘定及び外貨建各損益勘定の前日の外貨建純資産額に対する当該売却外国通貨の割合相当額を当該外国通貨の売却時の外国為替相場等で円換算し、前日の外貨基金勘定に対する円換算した外貨基金勘定の割合相当の邦貨建資産等の外国投資勘定と、円換算した外貨基金勘定を相殺した差額を為替差損益とする計理処理を採用しております。</p>

（重要な会計上の見積りに関する注記）

自 2021年12月11日 至 2022年 6月10日	自 2022年 6月11日 至 2022年12月12日
当計算期間の財務諸表の作成にあたって行った会計上の見積りが当計算期間の翌計算期間の財務諸表に重要な影響を及ぼすリスクは識別していないため、注記を省略しております。	同左

（貸借対照表に関する注記）

期別	2022年6月10日現在	2022年12月12日現在
1. 本報告書における開示対象ファンドの期首日における当該親投資信託の元本額	6,115,602,824円	5,706,045,620円
期中追加設定元本額	57,958,364円	132,218,735円
期中一部解約元本額	467,515,568円	302,201,894円
元本の内訳		
グローバル・ボンド・ファンドVA<適格機関投資家専用>	4,546,990,502円	4,371,676,177円
[アバディーン・ファンド・セレクション]海外高格付け債ファンド Bコース（為替ヘッジなし）	1,154,263,849円	1,159,595,015円
世界バランス・ファンド<適格機関投資家専用>	4,791,269円	4,791,269円
計	5,706,045,620円	5,536,062,461円
2. 受益権の総数	5,706,045,620口	5,536,062,461口

（金融商品に関する注記）

金融商品の状況に関する事項

項目	期別 自 2021年12月11日 至 2022年6月10日	自 2022年6月11日 至 2022年12月12日
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは証券投資信託であり、金融商品を投資対象とし、信託約款に定める「運用の基本方針」に基づき運用を行っております。	同左
2. 金融商品の内容及びリスク	当ファンドは日本を除く先進主要国の各種投資適格債（「BBB-」格以上）の債券を主要投資対象として運用を行います。 デリバティブ取引には、債券関連では先物取引が、通貨関連では為替予約取引が含まれております。 デリバティブ取引は、債券関連ではデュレーション・コントロールを目的として利用し、通貨関連では為替変動リスクの回避、または収益の確保を図るため、為替予約取引を利用します。 投資対象とする金融商品は金利変動、為替変動等に伴う市場リスク、信用リスク及び流動性リスクに晒されております。	同左
3. 金融商品に係るリスクの管理体制	委託会社では、取締役会が決定したリスク管理に関するリスク・マネジメント・ポリシーに基づき、ファンドのパフォーマンス、運用リスクの分析管理、その他各種リスクの管理を、運用部から独立したリスク管理部門が行っております。また、定期的に投資委員会を開催し、各プロダクトのパフォーマンスとそのリスクの管理・分析に関する審議を行っております。	同左

金融商品の時価等に関する事項

項目	期別	2022年6月10日現在	2022年12月12日現在
1. 貸借対照表計上額、時価及びその差額		貸借対照表計上額は原則として期末の時価で計上しているため、その差額はありません。	同左
2. 時価の算定方法		(1) 有価証券 売買目的有価証券 重要な会計方針に係る事項に関する注記「有価証券の評価基準及び評価方法」に記載しております。 なお、外国債券については、原則として、金融機関の提示する価額又は価格提供会社の提供する価額のいずれかを時価としております。 (2) デリバティブ取引 「デリバティブ取引等に関する注記」に記載しております。 (3) 有価証券及びデリバティブ取引以外の金融商品 有価証券及びデリバティブ取引以外の金融商品については、短期間で決済され、時価は帳簿価額と近似しているため、当該帳簿価額を時価としております。	(1) 有価証券 売買目的有価証券 同左 (2) デリバティブ取引 同左 (3) 有価証券及びデリバティブ取引以外の金融商品
3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明		金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。 また、デリバティブ取引に関する契約額等は、あくまでもデリバティブ取引における名目的な契約額であり、当該金額自体がデリバティブ取引のリスクの大きさを示すものではありません。	同左
4. 金銭債権及び満期のある有価証券（売買目的有価証券を除く。）の決算日後の償還予定額		貸借対照表に計上している金銭債権はその全額が1年以内に償還されます。	同左

(有価証券に関する注記)

(2022年6月10日現在)

売買目的有価証券

(単位：円)

種類	当計算期間の損益に含まれた評価差額
国債証券	1,552,843,426
特殊債券	135,775,284
合計	1,688,618,710

(2022年12月12日現在)

売買目的有価証券

(単位：円)

種類	当計算期間の損益に含まれた評価差額
国債証券	174,445,432
特殊債券	27,416,536
合計	201,861,968

(注)「当計算期間」とは当マザーファンドの計算期間の開始日から本報告書における開示対象ファンドの計算期間末日までの期間を指しております。

(デリバティブ取引等に関する注記)

取引の時価等に関する事項

(債券関連)

(2022年6月10日現在)

(単位：円)

区分	種類	契約額等	うち1年超	時価	評価損益
市場取引	債券先物取引				
	買建	2,029,611,342	-	1,980,949,379	48,661,963
	売建	3,085,543,323	-	3,034,380,383	51,162,940
	合計	5,115,154,665	-	5,015,329,762	2,500,977

(2022年12月12日現在)

(単位：円)

区分	種類	契約額等	うち1年超	時価	評価損益
市場取引	債券先物取引				
	買建	5,490,226,935	-	5,524,792,236	34,565,301
	売建	2,717,358,220	-	2,699,342,452	18,015,768
	合計	8,207,585,155	-	8,224,134,688	52,581,069

1. 時価の算定方法

債券先物取引の時価については、以下のように評価しております。

原則として計算期間末日に知りうる直近の日の主たる取引所の発表する清算値段又は最終相場で評価しております。

このような時価が発表されていない場合には、計算期間末日に最も近い最終相場や気配値等、原則に準ずる方法で評価しております。

2. 債券先物取引の残高は、契約額ベースで表示しております。

3. 契約額等には手数料相当額を含んでおりません。また契約額等及び時価の邦貨換算は計算期間末日の対顧客電信売買相場の仲値で行っており、換算において円未満の端数は切捨てております。

(通貨関連)

(2022年6月10日現在)

(単位:円)

区分	種類	契約額等	うち1年超	時価	評価損益	
市場取引以外の取引	為替予約取引					
	買建					
	米ドル	5,875,428,739	-	6,058,378,626	182,949,887	
	ユーロ	1,240,113,779	-	1,284,750,169	44,636,390	
	オーストラリア・ドル	557,716,879	-	587,158,416	29,441,537	
	スターリング・ポンド	442,415,311	-	461,061,588	18,646,277	
	シンガポール・ドル	61,268,346	-	63,423,060	2,154,714	
	デンマーク・クローネ	54,380,596	-	56,326,748	1,946,152	
	イスラエル・シェケル	58,108,723	-	60,843,687	2,734,964	
	スウェーデン・クローネ	39,736,530	-	41,182,435	1,445,905	
	ニュージーランド・ドル	694,252,315	-	726,063,738	31,811,423	
	カナダ・ドル	302,341,849	-	319,358,840	17,016,991	
	ノルウェー・クローネ	239,528,160	-	248,494,018	8,965,858	
	ポーランド・ズロチ	565,108,737	-	596,255,442	31,146,705	
	メキシコ・ペソ	167,764,323	-	179,266,622	11,502,299	
	売建					
	米ドル	2,553,044,859	-	2,630,121,433	77,076,574	
	ユーロ	3,050,840,454	-	3,171,251,699	120,411,245	
	オーストラリア・ドル	1,558,788,930	-	1,630,122,316	71,333,386	
	スターリング・ポンド	875,987,224	-	911,254,492	35,267,268	
	ニュージーランド・ドル	379,496,399	-	395,161,050	15,664,651	
	カナダ・ドル	371,549,721	-	391,149,107	19,599,386	
	ノルウェー・クローネ	367,647,081	-	383,330,750	15,683,669	
	ポーランド・ズロチ	270,293,878	-	285,452,552	15,158,674	
	メキシコ・ペソ	888,497,421	-	948,090,883	59,593,462	
	合計		20,614,310,254	-	21,428,497,671	45,389,213

(2022年12月12日現在)

(単位:円)

区分	種類	契約額等		時価	評価損益	
			うち1年超			
市場取引以外の取引	為替予約取引					
	買建					
	米ドル	6,619,539,559	-	6,224,077,182	395,462,377	
	ユーロ	990,183,984	-	967,397,782	22,786,202	
	オーストラリア・ドル	677,729,053	-	662,155,558	15,573,495	
	スターリング・ポンド	11,002,500	-	10,973,777	28,723	
	シンガポール・ドル	61,670,430	-	59,869,607	1,800,823	
	デンマーク・クローネ	50,672,604	-	49,691,914	980,690	
	イスラエル・シェケル	51,811,299	-	50,074,562	1,736,737	
	スウェーデン・クローネ	35,442,659	-	34,498,413	944,246	
	ニュージーランド・ドル	725,810,750	-	729,782,119	3,971,369	
	カナダ・ドル	449,873,471	-	413,628,270	36,245,201	
	ノルウェー・クローネ	267,998,780	-	255,777,944	12,220,836	
	ポーランド・ズロチ	194,460,020	-	190,704,925	3,755,095	
	メキシコ・ペソ	528,522,334	-	495,362,382	33,159,952	
	売建					
	米ドル	2,436,504,213	-	2,289,401,583	147,102,630	
	ユーロ	3,356,466,431	-	3,297,602,515	58,863,916	
	オーストラリア・ドル	1,472,329,825	-	1,439,245,885	33,083,940	
	スターリング・ポンド	616,115,614	-	616,118,710	3,096	
	ニュージーランド・ドル	774,346,491	-	777,838,196	3,491,705	
	カナダ・ドル	520,267,841	-	476,172,167	44,095,674	
	ノルウェー・クローネ	407,958,042	-	393,641,462	14,316,580	
	ポーランド・ズロチ	291,181,445	-	288,753,746	2,427,699	
	メキシコ・ペソ	1,046,908,994	-	975,554,927	71,354,067	
	合計		21,586,796,339	-	20,698,323,626	152,973,303

1. 為替予約の時価の算定方法

(1) 計算期間末日に対顧客先物相場の仲値が発表されている外貨については以下のように評価しております。

計算期間末日において為替予約の受渡日(以下「当該日」といいます)の対顧客先物売買相場が発表されている場合は、当該為替予約は当該仲値で評価しております。

計算期間末日において当該日の対顧客先物売買相場の仲値が発表されていない場合は、以下の方法によっております。

イ) 計算期間末日に当該日を超える対顧客先物売買相場が発表されている場合には、発表されている先物相場のうち当該日に最も近い前後二つの対顧客先物売買相場の仲値をもとに計算したレートを用いております。

ロ) 計算期間末日に当該日を超える対顧客先物売買相場が発表されていない場合には、当該日に最も近い発表されている対顧客先物売買相場の仲値を用いております。

(2) 計算期間末日に対顧客先物売買相場の仲値が発表されていない外貨については、計算期間末日の対顧客電信売買相場の仲値により評価しております。

2. 換算において円未満の端数は切捨てております。

(関連当事者との取引に関する注記)

自 2021年12月11日 至 2022年 6月10日	自 2022年 6月11日 至 2022年12月12日
該当事項はありません。	同左

(1口当たり情報に関する注記)

2022年 6月10日現在		2022年12月12日現在	
1口当たり純資産額	2.3614円	1口当たり純資産額	2.3618円
(1万口当たり純資産額	23,614円)	(1万口当たり純資産額	23,618円)

附属明細表

第1 有価証券明細表

(1) 株式

該当事項はありません。

(2) 株式以外の有価証券

通貨	種類	銘柄	券面総額	評価額	備考
米ドル	国債証券	0.375T-NOTE 250430	9,192,900	8,402,885.15	
		0.5T-NOTE 270430	2,490,300	2,158,292.43	
		0.875T-NOTE 301115	1,090,300	889,531.48	
		1.375T-NOTE 311115	321,600	267,757.12	
		3.875T-BOND 400815	529,900	537,993.39	
		1.125T-BOND 400815	1,135,800	738,846.77	
		1.75T-BOND 410815	4,596,500	3,284,253.12	
		1.25T-BOND 500515	4,948,800	2,905,100.25	
		国債証券 小計	24,306,100	19,184,659.71	
			(2,623,694,062)		
米ドル合計				19,184,659.71	
				(2,623,694,062)	
ユーロ	国債証券	4.5ITALY GVT 230501	150,000	151,286.70	
		GERMANY GVT 231013	3,613,000	3,552,070.36	
		FRANCE GVT 240325	1,508,800	1,466,451	
		SPAIN GVT 240531	1,265,000	1,222,339.39	
		1.45ITALY GVT 241115	93,000	91,079.64	
		0.5GERMANY GVT 250215	8,939,000	8,652,907.30	
		0.5FRANCE GVT 260525	2,524,200	2,386,350.91	
		0.75NETHERLANDS GVT 270715	1,387,500	1,309,673.73	
		2.05ITALY GVT 270801	1,634,000	1,561,737.98	
		1.45SPAIN GVT 271031	1,169,000	1,113,650.18	
		2.65ITALY GVT 271201	2,282,000	2,222,232.84	
		0.8BELGIUM GVT 280622	1,874,400	1,742,826.49	
		0.75FRANCE-EMPRUNT D E 281125	252,000	232,016.40	
		2.8ITALY GVT 281201	1,906,000	1,858,350	
		1.45SPAIN GVT 290430	1,587,000	1,482,629.35	
		0.5FINLAND GVT 290915	639,000	565,021.43	
		AUSTRIA GVT 300220	889,000	749,435.89	
		1.35IRELAND GVT 310318	627,000	585,307.63	
		0.5SPAIN GVT 311031	715,000	586,412.97	
		FRANCE GVT 311125	914,800	747,152.83	
		GERMANY GVT 320215	4,677,200	3,935,905.89	
		1.65ITALY GVT 320301	2,553,000	2,158,880.62	
		2.5NETHERLANDS GVT 330115	178,600	183,252.35	
		4.75GERMANY GVT 340704	612,600	790,865.98	
		GERMANY GVT 360515	777,300	598,448.18	
		0.85SPAIN GVT 370730	101,000	73,214.59	
		0.5FRANCE GVT 400525	335,100	236,395.62	
		1SPAIN GVT 420730	471,000	322,262.91	
		0.5FRANCE GVT 440625	525,900	350,444.50	
		2.75NETHERLANDS GVT 470115	189,800	216,661.06	
		1.5AUSTRIA GVT 470220	118,000	98,304.85	
		1.6BELGIUM GVT 470622	65,900	53,371.75	
		2FRANCE GVT 480525	83,400	74,493.71	

通貨	種類	銘柄	券面総額	評価額	備考	
		1.5FRANCE GVT 500525	212,100	169,130.66		
		1.7BELGIUM GVT 500622	354,200	288,122.57		
		GERMANY GVT 500815	270,100	171,276.35		
		1.SPAIN GVT 501031	252,000	152,611.70		
		NETHERLANDS GVT 520115	62,300	36,672.39		
		4.FRANCE GVT 550425	363,100	473,064.83		
		3.45SPAIN GVT 660730	99,000	102,535.68		
		2.8ITALY GVT 670301	81,000	63,735.09		
		0.7AUSTRIA GVT 710420	162,000	88,008.28		
		0.5FRANCE GVT 720525	140,900	68,067.09		
	国債証券 小計		46,655,200	42,984,659.67	(6,179,474,675)	
	特殊債券	EUROPEAN UNION 260706	1,574,000	1,443,671.22		
		EUROPEAN UNION 281004	1,066,694	927,185.35		
		0.4EUROPEAN UNION 370204	1,806,509	1,322,160.45		
		0.45EUROPEAN UNION 410704	632,644	420,590.58		
		0.7EUROPEAN UNION 510706	314,000	195,628.59		
	特殊債券 小計		5,393,847	4,309,236.19	(619,495,794)	
ユーロ合計				47,293,895.86	(6,798,970,469)	
カナダ・ドル	国債証券	1.5GOVERNMENT OF CANADA 240501	686,000	663,142.48		
		2.CANADA GVT 280601	2,046,000	1,957,195.41		
		2.CANADA GVT 511201	491,000	412,581.89		
	国債証券 小計		3,223,000	3,032,919.78	(303,595,270)	
カナダ・ドル合計				3,032,919.78	(303,595,270)	
スターリング・ポンド	国債証券	0.125UK TREASURY 240131	460,100	443,425.79		
		0.625UK TREASURY 250607	819,300	768,872.08		
		1UK TREASURY 320131	831,100	683,829.08		
		4.75UK TREASURY 381207	743,700	850,533.24		
		1.25UK TREASURY 411022	321,700	219,274.64		
		1.5UK TREASURY 470722	350,700	229,822.54		
		1.75UK TREASURY 490122	346,300	238,795.59		
		1.75UK TREASURY 570722	210,500	140,592.95		
		2.5UK TREASURY 650722	214,600	176,660.86		
	1.625UK TREASURY 711022	269,300	167,835.83			
国債証券 小計		4,567,300	3,919,642.60	(655,364,243)		
スターリング・ポンド合計				3,919,642.60	(655,364,243)	
オーストラリア・ドル	国債証券	3.25AUSTRALIA GVT 250421	727,000	731,392.02		
		4.75AUSTRALIA GVT 270421	3,103,000	3,311,432.23		
		2.75AUSTRALIA GVT 271121	5,827,000	5,731,289.66		
		1.75AUSTRALIA GVT 510621	545,000	366,917.04		
	国債証券 小計		10,202,000	10,141,030.95	(936,828,438)	

オーストラリア・ドル合計		10,141,030.95	
		(936,828,438)	

通貨	種類	銘柄	券面総額	評価額	備考
ニュージーランド・ドル	国債証券	2.75NEW ZEALAND GVT 510515	1,169,000	891,465.93	
	国債証券 小計		1,169,000	891,465.93	
				(77,842,804)	
ニュージーランド・ドル合計				891,465.93	
				(77,842,804)	
メキシコ・ペソ	国債証券	10MEXICO GVT 241205	36,089,500	36,201,805.11	
		7.75MEXICO GVT 310529	88,332,200	82,187,370.50	
	国債証券 小計		124,421,700	118,389,175.61	
				(818,791,377)	
メキシコ・ペソ合計				118,389,175.61	
				(818,791,377)	
ノルウェー・クローネ	国債証券	2NORWAY GVT 230524	11,828,000	11,780,983.70	
	国債証券 小計		11,828,000	11,780,983.70	
				(161,046,048)	
ノルウェー・クローネ合計				11,780,983.70	
				(161,046,048)	
ポーランド・ズロチ	国債証券	1.75POLAND GVT 320425	7,507,000	5,102,883.25	
	国債証券 小計		7,507,000	5,102,883.25	
				(156,476,853)	
ポーランド・ズロチ合計				5,102,883.25	
				(156,476,853)	
合計				219,736,657.39	
				(12,532,609,564)	

(注1)通貨種類毎の小計欄の()内は、邦貨換算額(単位:円)であります。

(注2)合計金額欄の()内は、邦貨換算額であり、外貨建有価証券に係わるもので、内書であります。

外貨建有価証券の内訳

種類	銘柄数	組入債券 時価比率	合計金額に 対する比率
米ドル	国債証券8銘柄	100.0%	20.93%
ユーロ	国債証券43銘柄	100.0%	49.31%
	特殊債券5銘柄	100.0%	4.94%
カナダ・ドル	国債証券3銘柄	100.0%	2.42%
スターリング・ポンド	国債証券10銘柄	100.0%	5.23%
オーストラリア・ドル	国債証券4銘柄	100.0%	7.48%
ニュージーランド・ドル	国債証券1銘柄	100.0%	0.62%
メキシコ・ペソ	国債証券2銘柄	100.0%	6.53%
ノルウェー・クローネ	国債証券1銘柄	100.0%	1.29%
ポーランド・ズロチ	国債証券1銘柄	100.0%	1.25%

第2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額及び時価の状況表

「注記表(デリバティブ取引等に関する注記)」に記載しております。

2【ファンドの現況】

【純資産額計算書】

(2022年12月30日現在)

資産総額	2,664,495,515 円
負債総額	7,358,569 円
純資産総額(-)	2,657,136,946 円
発行済数量	2,080,686,187 口
1口当たり純資産額(/)	1.2770 円

(参考) F S 海外高格付け債マザーファンド

資産総額	13,338,346,392 円
負債総額	832,429,306 円
純資産総額(-)	12,505,917,086 円
発行済数量	5,536,062,461 口
1口当たり純資産額(/)	2.2590 円

第4【内国投資信託受益証券事務の概要】

- a. 名義書換手続き等
名義書換は行われません。
- b. 受益者等に対する特典
該当事項はありません。
- c. 譲渡制限の内容
譲渡制限はありません。
- d. 受益権の譲渡
受益者は、その保有する受益権を譲渡する場合には、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿に係る振替機関等に振替の申請をするものとします。
前記の申請のある場合には、前記の振替機関等は、当該譲渡に係る譲渡人の保有する受益権の口数の減少および譲受人の保有する受益権の口数の増加につき、その備える振替口座簿に記載または記録するものとします。ただし、前記の振替機関等が振替先口座を開設したものでない場合には、譲受人の振替先口座を開設した他の振替機関等（当該他の振替機関等の上位機関を含みます。）に社振法の規定にしたがい、譲受人の振替先口座に受益権の口数の増加の記載または記録が行われるよう通知するものとします。
前記の振替について、委託会社は、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿に係る振替機関等と譲受人の振替先口座を開設した振替機関等が異なる場合等において、委託会社が必要と認めるときまたはやむをえない事情があると判断したときは、振替停止日や振替停止期間を設けることができます。
- e. 受益権の譲渡の対抗要件
受益権の譲渡は、振替口座簿への記載または記録によらなければ、委託会社および受託会社に対抗することができません。
- f. 受益権の再分割
委託会社は、受託会社と協議のうえ、一定日現在の受益権を均等に再分割できるものとします。
- g. 償還金
償還金は、償還日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者（償還日以前において換金が行われた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該償還日以前に設定された受益権で購入代金の支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として購入申込者として）に支払います。
- h. 質権口記載または記録の受益権の取り扱いについて
振替機関等の振替口座簿の質権口に記載または記録されている受益権にかかる収益分配金の支払い、換金申込みの受付け、換金代金および償還金の支払い等については、信託約款の規定によるほか、民法その他の法令等にしたがって取り扱われます。

第三部【委託会社等の情報】

第1【委託会社等の概況】

1【委託会社等の概況】

a．資本金の額（本書提出日現在）

資本金	： 940百万円
発行する株式の総数	： 320,000株
発行済株式の総数	： 308,168株

最近5年間における資本金の額の増減

2018年11月13日	： 4,090.4百万円から490百万円に減資
2019年9月26日	： 490百万円から940百万円に増資

b．委託会社の機構

経営の意思決定機構

取締役を株主総会において選任します。取締役の任期は、選任後2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結の時までとします。補欠としてまたは増員により選任された取締役の任期は、他の在任取締役の任期の満了する時までとします。

取締役会は、取締役の中から5名以内の代表取締役を選定します。また、取締役会は、代表取締役の中から取締役社長を選定します。

取締役会は取締役社長が招集し、議長となります。取締役社長がこれを招集することができずまたはこれを招集することを欲しないときは、取締役会があらかじめ定めた順序にしたがい、他の取締役がこれを招集します。取締役会の招集通知は、各取締役および各監査役に対し会日の3日前までにこれを発します。全取締役および監査役の同意があるときは、招集通知を省略しまたは招集期間を短縮することができます。取締役会は、法令または定款に定める事項、その他当社の重要な業務の執行について決定します。

運用の意思決定機構

ファンドの信託約款等に定められている運用の基本方針に基づき、「投資委員会」において審議、決定される運用方針に沿って、運用部門が原則的に運用の指図を行います。

「投資委員会」は以下のように運営されています。

< 構成 >

運用部長、不動産投資運用部長、在日取締役を主要メンバーとして構成します。

< 開催 >

原則として月1回開催します。

< 審議事項 >

次に定める事項等を審議、承認または必要に応じて決定を行います。

- ・ファンドの運用方針の策定
- ・ファンドの運用方針の変更
- ・その他上記に準ずる事項

< その他 >

審議方法、議事録、通知等および事務局を投資委員会の規則により定めます。

* 上記は2023年2月末日現在のものであり、今後変更となる場合があります。

2【事業の内容及び営業の概況】

「投資信託及び投資法人に関する法律」に定める投資信託委託会社である委託会社は、証券投資信託の設定を行うとともに「金融商品取引法」に定める金融商品取引業者としてその運用（投資運用業）を行っています。また「金融商品取引法」に定める第二種金融商品取引業務及び投資助言・代理業を行っています。

2022年12月末日現在、委託会社が運用する投資信託は4本であり、その純資産総額の合計は16,591百万円です。（ただし、親投資信託を除きます。）

3【委託会社等の経理状況】

1．財務諸表の作成方法について

委託会社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）第2条の規定に基づき、同規則及び「金融商品取引業等に関する内閣府令」（平成19年内閣府令第52号）により作成しております。

財務諸表に記載してある金額については、千円未満の端数を切り捨てて表示しております。

2．監査証明について

委託会社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第29期事業年度（自2021年1月1日 至2021年12月31日）の財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による監査を受けております。

3．連結財務諸表について

当社子会社がありませんので、連結財務諸表を作成しておりません。

(1) 【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (2020年12月31日)		当事業年度 (2021年12月31日)
資産の部			
流動資産			
預金	1,849,963		1,537,314
立替金	510		238
仮払金	366		401
前払金	3		2
前払費用	21,429		20,781
未収入金	108,300	* 2	186,639
未収委託者報酬	74,628		37,140
未収投資助言報酬	800		-
未収運用受託報酬	267,033		395,318
未収消費税等	2,165		7,982
差入保証金	3,450		1,650
流動資産合計	2,328,652		2,187,470
固定資産			
有形固定資産			
建物附属設備	* 1	109,551	* 1
器具備品	* 1	37,309	* 1
有形固定資産合計		146,860	132,243
無形固定資産			
ソフトウェア		0	0
無形固定資産合計		0	0
投資その他の資産			
長期差入保証金		111,180	111,180
長期前払費用		700	500
その他投資等		952	952
貸倒引当金（投資等）		792	792
投資その他の資産合計		112,040	111,840
固定資産合計		258,900	244,083
資産合計		2,587,553	2,431,554

	前事業年度 (2020年12月31日)	当事業年度 (2021年12月31日)
負債の部		
流動負債		
預り金	18,358	17,988
未払金	42,782	285,876
未払手数料	27,415	10,127
未払委託調査費	10,209	39,837
その他未払金	5,157	* 2 235,910
未払法人税等	12,464	8,664
未払費用	* 2 229,097	* 2 108,868
前受収益	18,384	16,469
賞与引当金	495,885	152,353
流動負債合計	816,971	590,221
固定負債		
退職給付引当金	136,157	108,657
役員退職慰労引当金	2,078	3,579
資産除去債務	48,500	48,500
固定負債合計	186,736	160,737
負債合計	1,003,707	750,958
純資産の部		
株主資本		
資本金	940,000	940,000
資本剰余金		
資本準備金	1,057,021	1,057,021
利益剰余金		
その他利益剰余金	413,175	316,425
繰越利益剰余金	413,175	316,425
株主資本合計	1,583,845	1,680,595
純資産合計	1,583,845	1,680,595
負債・純資産合計	2,587,553	2,431,554

(2) 【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自2020年1月1日 至2020年12月31日)	当事業年度 (自2021年1月1日 至2021年12月31日)
営業収益		
委託者報酬	308,980	249,638
投資助言報酬	46,112	20,669
運用受託報酬	1,249,001	1,577,328
その他営業収益	* 1 249,641	* 1 295,297
営業収益計	1,853,735	2,142,933
営業費用		
支払手数料	130,020	105,580
広告宣伝費	40,410	14,499
公告費	1,156	2,142
調査費	27,055	* 2 29,622
委託調査費	37,481	77,001
委託計算費	111,139	133,067
通信費	6,071	4,224
印刷費	6,799	8,388
協会費	6,774	6,336
営業費用計	366,909	380,864
一般管理費		
役員報酬	57,349	57,139
給料・手当	713,656	585,353
賞与	33,963	5,155
交際費	3,614	3,662
寄付金	3,100	-
旅費交通費	5,471	1,772
租税公課	23,011	16,958
不動産賃借料	96,016	100,426
退職給付費用	58,319	49,486
役員退職給付費用	660	660
役員退職慰労引当金繰入	1,656	1,500
賞与引当金繰入	135,011	134,504
固定資産減価償却費	32,421	20,787
事務委託費	* 2 458,767	* 2 442,228
諸経費	189,553	227,463
一般管理費計	1,812,574	1,647,098
営業利益又は営業損失()	325,748	114,970

	前事業年度 (自2020年1月1日 至2020年12月31日)	当事業年度 (自2021年1月1日 至2021年12月31日)
営業外収益		
受取利息	21	18
その他	653	128
営業外収益計	674	147
営業外費用		
固定資産除却損	0	0
為替差損	25,414	17,418
営業外費用計	25,414	17,418
経常利益又は経常損失()	350,488	97,699
税引前当期純利益又は 税引前当期純損失()	350,488	97,699
法人税、住民税及び事業税	890	950
当期純利益又は当期純損失()	351,378	96,749

(3) 【株主資本等変動計算書】

前事業年度

(自2020年1月1日
至2020年12月31日)

(単位：千円)

項目	株主資本			
	資本金	資本剰余金		
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計
当期首残高	940,000	1,057,021	-	1,057,021
当期変動額				
当期純損失 ()	-	-	-	-
当期変動額合計	-	-	-	-
当期末残高	940,000	1,057,021	-	1,057,021

項目	株主資本			純資産合計
	利益剰余金		株主資本合計	
	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計		
当期首残高	61,797	61,797	1,935,224	1,935,224
当期変動額				
当期純損失 ()	351,378	351,378	351,378	351,378
当期変動額合計	351,378	351,378	351,378	351,378
当期末残高	413,175	413,175	1,583,845	1,583,845

当事業年度
（自2021年1月1日
至2021年12月31日）

（単位：千円）

項目	株主資本			
	資本金	資本剰余金		
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計
当期首残高	940,000	1,057,021	-	1,057,021
当期変動額				
当期純利益	-	-	-	-
当期変動額合計	-	-	-	-
当期末残高	940,000	1,057,021	-	1,057,021

項目	株主資本			純資産合計
	利益剰余金		株主資本合計	
	その他利益剰余金	利益剰余金合計		
	繰越利益剰余金			
当期首残高	413,175	413,175	1,583,845	1,583,845
当期変動額				
当期純利益	96,749	96,749	96,749	96,749
当期変動額合計	96,749	96,749	96,749	96,749
当期末残高	316,425	316,425	1,680,595	1,680,595

重要な会計方針

1．固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産

定額法を採用しております。なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物附属設備	15年
器具備品	3～18年

2．引当金の計上基準

(1) 賞与引当金

賞与の支給に備えるため、支給見込額に基づき当事業年度の負担額を計上しております。

(2) 退職給付引当金

従業員に対する退職給付の支給に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき、当事業年度末において発生していると認められる額を計上しております。数理計算上の差異は、その発生時の事業年度に一括して費用処理することとしております。

(3) 役員退職慰労引当金

役員に対する退職慰労金の支給に備えるため、支給見込額に基づき計上しております。

(4) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

3．外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

4．その他財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の処理方法

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

注記事項

（貸借対照表関係）

* 1 有形固定資産の減価償却累計額

	前事業年度 (2020年12月31日)	当事業年度 (2021年12月31日)
有形固定資産の減価償却累計額	129,320千円	145,659千円

* 2 関係会社項目

	前事業年度 (2020年12月31日)	当事業年度 (2021年12月31日)
営業取引による未収・未払分		
未収入金	-	32,196千円
その他未払金	-	29,769千円
未払費用	15,448千円	-

（損益計算書関係）

* 1 その他営業収益

その他営業収益には、金融商品取引法第35条第1項に規定されている付随業務として、関係会社等とのリエゾン業務に係る収益が主に計上されております。

* 2 関係会社との取引高

	前事業年度 (自2020年1月1日 至2020年12月31日)	当事業年度 (自2021年1月1日 至2021年12月31日)
営業取引による取引高		
事務委託費	115,354千円	55,276千円
調査費	-	1,021千円

（株主資本等変動計算書関係）

前事業年度（自2020年1月1日 至2020年12月31日）

1. 発行済株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首株式数（株）	増加（株）	減少（株）	当事業年度末株式数（株）
普通株式	308,168	-	-	308,168

2. 自己株式に関する事項

該当事項はありません。

3. 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4. 配当に関する事項

該当事項はありません。

当事業年度（自2021年1月1日 至2021年12月31日）

1. 発行済株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首株式数（株）	増加（株）	減少（株）	当事業年度末株式数（株）
普通株式	308,168	-	-	308,168

2. 自己株式に関する事項

該当事項はありません。

3. 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4. 配当に関する事項

該当事項はありません。

（リース取引関係）

該当事項はありません。

（有価証券関係）

該当事項はありません。

（デリバティブ取引関係）

該当事項はありません。

（金融商品に関する注記）

1. 金融商品の状況に関する事項

（1）金融商品に対する取組方針

当社は、主に投資運用業及び投資助言業等を行っており、余剰資金運用については、銀行預金等安全性の高い金融資産で運用しております。現在、金融機関及びその他からの借入はありません。

（2）金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である未収委託者報酬は、投資信託約款に基づき、信託財産から委託者に対して支払われる運用報酬の未決済額であり、信託財産は受託銀行において分別管理されているため、信用リスクは極めて軽微であると認識しております。

未収入金及び未収運用受託報酬は概ね、海外の関連会社との取引により生じたものであり、原則、短期に決済が行われることにより、回収が不能となるリスクはほとんどないものと考えております。

預金預入先に付きましては、格付けの高い金融機関とのみ取引を行っております。

2. 金融商品の時価等に関する事項

貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません(<注2>参照のこと)。

前事業年度（2020年12月31日）

（単位：千円）

	貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 預金	1,849,963	1,849,963	-
(2) 未収入金	108,300	108,300	-
(3) 未収委託者報酬	74,628	74,628	-
(4) 未収投資助言報酬	800	800	-
(5) 未収運用受託報酬	267,033	267,033	-
(6) 差入保証金	3,450	3,450	-
資産計	2,304,176	2,304,176	-
(7) 預り金	18,358	18,358	-
(8) 未払手数料	27,415	27,415	-
(9) 未払委託調査費	10,209	10,209	-
(10) その他未払金	5,157	5,157	-
負債計	61,140	61,140	-

<注1>金融商品の時価の算定方法

資産

(1) 預金

預金は全て短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(2) 未収入金、(3) 未収委託者報酬、(4) 未収投資助言報酬、(5) 未収運用受託報酬、(6) 差入保証金

上記は短期債権であるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

負債

(7) 預り金、(8) 未払手数料、(9) 未払委託調査費、(10) その他未払金

上記は短期債務であるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

当事業年度（2021年12月31日）

（単位：千円）

	貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 預金	1,537,314	1,537,314	-
(2) 未収入金	186,639	186,639	-
(3) 未収委託者報酬	37,140	37,140	-
(4) 未収運用受託報酬	395,318	395,318	-
(5) 差入保証金	1,650	1,650	-
資産計	2,158,063	2,158,063	-
(6) 預り金	17,988	17,988	-
(7) 未払手数料	10,127	10,127	-
(8) 未払委託調査費	39,837	39,837	-
(9) その他未払金	235,910	235,910	-
負債計	303,864	303,864	-

<注1>金融商品の時価の算定方法

資産

(1) 預金

預金は全て短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(2) 未収入金、(3) 未収委託者報酬、(4) 未収運用受託報酬、(5) 差入保証金

上記は短期債権であるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

負債

(6) 預り金、(7) 未払手数料、(8) 未払委託調査費、(9) その他未払金

上記は短期債務であるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

<注2>時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の貸借対照表計上額

(単位：千円)

区分	2020年12月31日	2021年12月31日
長期差入保証金	111,180	111,180

上記は市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積ることができず、時価を把握することが極めて困難と認められるものであるため、時価開示の対象としておりません。

<注3>金銭債権の償還予定額

前事業年度(2020年12月31日)

(単位：千円)

区分	1年以内	1年超
預金	1,849,963	-
未収入金	108,300	-
未収委託者報酬	74,628	-
未収投資助言報酬	800	-
未収運用受託報酬	267,033	-
差入保証金	3,450	-
金銭債権合計	2,304,176	-

当事業年度(2021年12月31日)

(単位：千円)

区分	1年以内	1年超
預金	1,537,314	-
未収入金	186,639	-
未収委託者報酬	37,140	-
未収運用受託報酬	395,318	-
差入保証金	1,650	-
金銭債権合計	2,158,063	-

(退職給付関係)

1. 採用している制度の概要：確定給付型退職一時金制度（キャッシュバランス型退職金）及び企業型確定拠出年金を設けております。

2. 確定給付制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

(単位：千円)

	前事業年度 (自2020年1月1日 至2020年12月31日)	当事業年度 (自2021年1月1日 至2021年12月31日)
退職給付債務の期首残高	156,969	136,157
勤務費用	37,206	29,027
利息費用	279	356
数理計算上の差異の発生額	6,020	1,178
退職給付の支払額	49,082	52,509
確定拠出年金への移管額	3,196	3,196
退職給付債務の期末残高	136,157	108,657

(2) 退職給付債務の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金の調整表

(単位：千円)

	前事業年度 (2020年12月31日)	当事業年度 (2021年12月31日)
退職給付債務	136,157	108,657
未積立退職給付債務	136,157	108,657
貸借対照表に計上された負債の額	136,157	108,657

(3) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

(単位：千円)

	前事業年度 (自2020年1月1日 至2020年12月31日)	当事業年度 (自2021年1月1日 至2021年12月31日)
勤務費用	37,206	29,027
利息費用	279	356
数理計算上の差異の費用処理額	6,020	1,178
確定給付制度に係る退職給付費用	31,466	28,205

(4) 数理計算上の計算基礎に関する事項

	前事業年度 (自2020年1月1日 至2020年12月31日)	当事業年度 (自2021年1月1日 至2021年12月31日)
割引率	0.30%	0.30%

3. 確定拠出制度

当社の確定拠出制度への要拠出額は、前事業年度26,853千円、当事業年度21,280千円でありま
す。

（ストックオプション等関係）
該当事項はありません。

（税効果会計関係）

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	（単位：千円）	
	前事業年度 （2020年12月31日）	当事業年度 （2021年12月31日）
繰延税金資産		
未払事業税	3,525	2,362
未払費用	70,655	33,335
役員退職慰労引当金	636	1,095
賞与引当金	151,840	46,650
退職給付引当金	41,691	33,271
資産除去債務	14,850	14,850
繰越欠損金	726,681	770,212
繰延税金資産 小計	1,009,881	901,778
税務上の繰越欠損金に係る評価性引当額	726,681	770,212
将来減算一時差異等に係る評価性引当額	282,113	131,566
評価性引当額 小計	1,008,795	901,778
繰延税金負債との相殺	1,086	-
繰延税金資産の純額 合計	-	-
繰延税金負債		
未収事業税	-	-
資産除去債務に対応する除却費用	1,086	-
繰延税金負債 小計	1,086	-
繰延税金資産との相殺	1,086	-
繰延税金負債の純額 合計	-	-

（注）税務上の繰越欠損金及びその繰延税金資産の繰越期限別の金額

前事業年度（2020年12月31日）

（単位：千円）

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超	合計
税務上の繰越欠損金()	70,065	149,729	108,344	101,965	-	296,576	726,681
評価性引当額	70,065	149,729	108,344	101,965	-	296,576	726,681
繰延税金資産	-	-	-	-	-	-	-

（ ）税務上の繰越欠損金は、法定実効税率を乗じた額であります。

当事業年度（2021年12月31日）

（単位：千円）

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超	合計
税務上の繰越欠損金()	149,729	108,344	101,965	-	-	410,172	770,212
評価性引当額	149,729	108,344	101,965	-	-	410,172	770,212
繰延税金資産	-	-	-	-	-	-	-

（ ）税務上の繰越欠損金は、法定実効税率を乗じた額であります。

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (2020年12月31日)	当事業年度 (2021年12月31日)
法定実効税率	30.6%	30.6%
(調整)		
評価性引当額の増減	21.1%	104.9%
住民税均等割	0.2%	0.9%
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.2%	2.5%
繰越欠損金の期限切れ	9.2%	71.7%
過年度法人税等	0.0%	0.0%
その他	-%	-%
税効果適用後の法人税等の負担率	0.2%	0.9%

（注）前事業年度は税引前当期純損失のため、法定実効税率を（マイナス）として記載していません。

（持分法投資損益等）

該当事項はありません。

（資産除去債務）

資産除去債務のうち貸借対照表に計上しているもの

- （１）当該資産除去債務の概要
本店事務所に係る定期建物賃貸借に基づく原状回復義務を有しており、資産除去債務を計上しております。
- （２）当該資産除去債務の金額の算定方法
使用見込期間を期末時点から当該契約期間終了時として見積もり、資産除去債務の計上金額に及ぼす影響が乏しいために、割引計算をしておりません。
- （３）当該資産除去債務の総額の増減

（単位：千円）

	前事業年度 （自2020年1月1日 至2020年12月31日）	当事業年度 （自2021年1月1日 至2021年12月31日）
期首残高	48,500	48,500
有形固定資産の取得に伴う増加額	-	-
資産除去債務の履行による減少額	-	-
期末残高	48,500	48,500

（セグメント情報等）

[セグメント情報]

当社の報告セグメントは、「投資運用業」という単一セグメントであるため、記載を省略しております。

[関連情報]

前事業年度（自2020年1月1日 至2020年12月31日）

1．製品及びサービスごとの情報

（単位：千円）

	委託者報酬	投資助言報酬	運用受託報酬	その他営業 収益	合計
外部顧客への 営業収益	308,980	46,112	1,249,001	249,641	1,853,735

2．地域ごとの情報

（１）営業収益

（単位：千円）

日本	シンガポール	英国	オランダ	ルクセンブルグ	その他	合計
411,861	51,038	612,035	287,344	485,176	6,278	1,853,735

（注）営業収益は顧客の所在を基礎として、国又は地域に分類しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が当事業年度末貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、地域ごとの有形固定資産の記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称又は氏名	営業収益	関連するセグメント名
アバディーン・スタンダード・インベストメンツ・ルクセンブルグ・エスエー	485,176	投資運用業
スタンダードライフ・インベストメンツ・リミテッド	455,354	投資運用業
A社	287,344	投資運用業

(注) A社につきましては、業務遂行上の制約から、社名の公表は控えさせていただきます。

当事業年度（自2021年1月1日 至2021年12月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

(単位：千円)

	委託者報酬	投資助言報酬	運用受託報酬	その他営業収益	合計
外部顧客への営業収益	249,638	20,669	1,577,328	295,297	2,142,933

2. 地域ごとの情報

(1) 営業収益

(単位：千円)

日本	シンガポール	英国	オランダ	ルクセンブルグ	その他	合計
341,645	113,068	819,365	299,966	565,475	3,411	2,142,933

(注) 営業収益は顧客の所在を基礎として、国又は地域に分類しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が当事業年度末貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、地域ごとの有形固定資産の記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称又は氏名	営業収益	関連するセグメント名
アバディーン・インベストメント・マネジメン ト・リミテッド	621,623	投資運用業
アバディーン・スタンダード・インベストメン ツ・ルクセンブルグ・エスエー	565,475	投資運用業
A社	299,966	投資運用業

(注) A社につきましては、業務遂行上の制約から、社名の公表は控えさせていただきます。

(関連当事者との取引)

(1) 親会社及び法人主要株主等

前事業年度（自2020年1月1日 至2020年12月31日）

種類	会社等の名称	所在地	資本金又は出資金	事業の内容又は職業	議決権等の所有（被所有）割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額（千円） (注)	科目	期末残高（千円）
親会社	アバディーン・アセット・マネジ メントPLC	英国スコット ランド・アバ ディーン	159.8百万 英国ポ ンド	資産 運用業	(被所有) 100.0	一般管理事務 に係る事務委 託等	一般管理費等に 係る再配分	115,354	未払費用	15,448

当事業年度（自2021年1月1日 至2021年12月31日）

種類	会社等の名称	所在地	資本金又は出資金	事業の内容又は職業	議決権等の所有（被所有）割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額（千円） (注)	科目	期末残高（千円）
親会社	アバディーン・アセ ット・マネジ メントPLC	英国スコット ランド・アバ ディーン	164.9百万 英国ポ ンド	資産 運用業	(被所有) 100.0	一般管理事務 に係る事務委 託等	一般管理費等に 係る再配分	55,276	未収入金	32,196
									その他未払金	28,750
						営業費用（調 査費）等	営業費用（調 査費）等の再配分	1,021	その他未払金	1,018

(注) 1. 取引金額に消費税等は含まれておりません。

2. 取引条件及び取引条件の決定方針等

上記会社との取引については、市場価格等を参考に決定しております。

(2) 兄弟会社等

前事業年度（自2020年1月1日 至2020年12月31日）

種類	会社等の名称	所在地	資本金又は出資金	事業の内容又は職業	議決権等の所有（被所有）割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額（千円） (注)	科目	期末残高（千円）
親会社の子会社	アバディーン・スタンダード・インベストメンツ・（アジア）・リミテッド	シンガポール	81.9百万シンガポールドル	資産運用業	無し	一般管理事務に係る事務委託等	事務委託費等	145,069	未払費用	36,814
						投資信託等に関するリエゾン業務及び不動産投資に関する助言等の業務の提供	投資信託等に関するリエゾン業務及び不動産投資に関する助言等の業務の提供に係る報酬	39,813	未収入金	18,262
親会社の子会社	アバディーン・アセット・マネージャーズ・リミテッド	英国スコットランド・アバディーン	33.7百万英国ポンド	資産運用業	無し	投資信託の運用外部委託	投資信託の運用外部委託に係る費用	23,309	未払委託調査費	5,138
						投資信託等に関するリエゾン業務の提供	投資信託等に関するリエゾン業務の提供に係る報酬	62,306	未収入金	27,756
						資産運用の投資一任契約	資産運用の投資一任契約に係る運用報酬	38,243	未収運用受託報酬	19,819
						一般管理事務に係る事務委託等	一般管理費等に係る再配分	42,638	未払費用	34,399
親会社の子会社	アバディーン・スタンダード・インベストメンツ・アイルランド・リミテッド（アムステルダム支店）	アイルランド（オランダ）	10.4百万ユーロ	資産運用業	無し	一般管理事務に係る事務委託等	事務委託費等	85,575	未払費用	17,003
親会社の子会社	アバディーン・スタンダード・インベストメンツ・ルクセンブルグ・エス・エー	ルクセンブルグ	10.0百万ユーロ	資産運用業	無し	資産運用の投資一任契約	資産運用の投資一任契約に係る運用報酬	473,376	未収運用受託報酬	20,368
親会社の子会社	オライオン・パートナーズ・サービス・インク	ケイマン	1.0百万米国ドル	資産運用業	無し	不動産投資に関する助言等の業務の提供	不動産投資に関する助言等の業務の提供に係る報酬	2,910	未収入金	34,572
親会社の子会社	アバディーン・スタンダード・ファンド・マネージャーズ・リミテッド	英国ロンドン	0.7百万英国ポンド	資産運用業	無し	資産運用の投資一任契約	資産運用の投資一任契約に係る運用報酬	56,131	未収運用受託報酬	35,564

親会社の子会社	スタンダードライフ・インベストメンツ・リミテッド	英国エジンバラ	34.4百万英国ポンド	資産運用業	無し	投資信託等に関するリエゾン業務の提供	投資信託等に関するリエゾン業務の提供に係る報酬	87,886	未収入金	22,053
						一般管理事務に係る事務委託等	一般管理費等に係る再配分	62,899	未払費用	62,899
						資産運用の投資一任契約	資産運用の投資一任契約に係る運用報酬	367,468	未収運用受託報酬	98,085

(注) 1. 取引金額に消費税等は含まれておりません。

2. 取引条件及び取引条件の決定方針等

上記会社との取引については、市場価格等を参考に決定しております。

当事業年度（自2021年1月1日 至2021年12月31日）

種類	会社等の名称	所在地	資本金又は出資金	事業の内容又は職業	議決権等の所有（被所有）割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額（千円） (注)	科目	期末残高（千円）
親会社の子会社	アバディーン・アジア・リミテッド	シンガポール	81.9百万シンガポールドル	資産運用業	無し	一般管理事務に係る事務委託等	事務委託費等	121,731	未収入金	9,560
									その他未払金	85,870
								投資信託等に関するリエゾン業務及び不動産投資に関する助言等の業務の提供	投資信託等に関するリエゾン業務及び不動産投資に関する助言等の業務の提供に係る報酬	113,050
親会社の子会社	アバディーン・アセット・マネージャーズ・リミテッド	英国スコットランド・アバディーン	33.7百万英国ポンド	資産運用業	無し	投資信託の運用外部委託	投資信託の運用外部委託に係る費用	18,783	未払委託調査費	6,533
						投資信託等に関するリエゾン業務の提供	投資信託等に関するリエゾン業務の提供に係る報酬	39,027	未収入金	6,150
						資産運用の投資一任契約	資産運用の投資一任契約に係る運用報酬	42,112	未収運用受託報酬	3,051
						一般管理事務に係る事務委託等	一般管理費等に係る再配分	32,994	未収入金	10,343
その他未払金	11,884									
親会社の子会社	アバディーン・スタンダード・インベストメンツ・アイルランド・リミテッド（アムステルダム支店）	アイルランド（オランダ）	10.4百万ユーロ	資産運用業	無し	一般管理事務に係る事務委託等	事務委託費等	90,870	その他未払金	28,183
									未払費用	15,661

親会社の子会社	アバディーン・スタンダード・インベストメンツ・ルクセンブルグ・エスエー	ルクセンブルグ	10.0百万ユーロ	資産運用業	無し	資産運用の投資一任契約	資産運用の投資一任契約に係る運用報酬	528,893	未収運用受託報酬	86,206
親会社の子会社	オライオン・パートナーズ・サービス・インク	ケイマン	1.0百万米ドル	資産運用業	無し	不動産投資に関する助言等の業務の提供	不動産投資に関する助言等の業務の提供に係る報酬	-	未収入金	34,572
親会社の子会社	アバディーン・スタンダード・ファンド・マネジャーズ・リミテッド	英国ロンドン	0.7百万英国ポンド	資産運用業	無し	資産運用の投資一任契約	資産運用の投資一任契約に係る運用報酬	69,048	未収運用受託報酬	2,371
親会社の子会社	アバディーン・コーポレート・サービス・リミテッド	英国エジンバラ	0.07百万英国ポンド	ビジネスサポート業	無し	一般管理事務に係る事務委託等	一般管理費等に係る再配分	85,513	その他未払金	42,237
									未払費用	43,952
親会社の子会社	アバディーン・インベストメント・マネジメント・リミテッド	英国エジンバラ	34.4百万英国ポンド	資産運用業	無し	投資信託等に関するリエゾン業務の提供	投資信託等に関するリエゾン業務の提供に係る報酬	77,499	未収入金	22,068
						一般管理事務に係る事務委託等	一般管理費等に係る再配分	34,999	未収入金	29,520
									その他未払金	23,586
						資産運用の投資一任契約	資産運用の投資一任契約に係る運用報酬	544,124	未収運用受託報酬	177,002

(注) 1. 取引金額に消費税等は含まれておりません。

2. 取引条件及び取引条件の決定方針等

上記会社との取引については、市場価格を参考に決定しております。

3. アバディーン・スタンダード・インベストメンツ・(アジア)・リミテッドは、2021年10月26日に、アバディーン・アジア・リミテッドに社名変更しております。

4. スタンダードライフ・インベストメンツ・リミテッドは、2021年11月26日に、アバディーン・インベストメント・マネジメント・リミテッドに社名変更しております。

(3) 親会社に関する注記

アバディーン・アセット・マネジメントPLC（非上場）

(1 株当たり情報)

区分	前事業年度 (自2020年1月1日 至2020年12月31日)	当事業年度 (自2021年1月1日 至2021年12月31日)
1株当たり純資産額	5,139円55銭	5,453円50銭
1株当たり当期純利益 又は純損失()金額	1,140円21銭	313円95銭

(注) 潜在株式調整後1株当たり当期純利益又は純損失()金額については、潜在株式が存在しないため、記載していません。

(注) 1株当たり当期純利益又は純損失()金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前事業年度 (自2020年1月1日 至2020年12月31日)	当事業年度 (自2021年1月1日 至2021年12月31日)
当期純利益又は純損失()(千円)	351,378	96,749
普通株式に係る当期純利益 又は純損失()(千円)	351,378	96,749
普通株主に帰属しない金額(千円)		
期中平均株式数(株)	308,168.00	308,168.00

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

中間財務諸表

1. 委託会社の中間財務諸表は「中間財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和52年大蔵省令第38号）第38条及び第57条の規定に基づき、同規則及び「金融商品取引業等に関する内閣府令」（平成19年8月6日 内閣府令第52号）に基づいて作成しております。
また、中間財務諸表の金額については、千円未満の端数を切り捨てて表示しております。
2. 委託会社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第30期事業年度中間会計期間（自2022年1月1日至2022年6月30日）の中間財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による中間監査を受けております。

(1) 中間貸借対照表

(単位：千円)

		当中間会計期間末 (2022年6月30日現在)
資産の部		
流動資産		
預金		2,026,035
未収委託者報酬		27,189
未収運用受託報酬		637,494
未収入金		164,636
未収消費税等	*2	7,264
差入保証金		750
その他		37,705
流動資産合計		2,901,076
固定資産		
有形固定資産 *1		
建物附属設備		92,809
器具備品		30,610
有形固定資産合計		123,420
無形固定資産		
ソフトウェア		0
無形固定資産合計		0
投資その他の資産		
長期差入保証金		111,180
その他投資等		952
貸倒引当金		792
投資その他の資産合計		111,340
固定資産合計		234,760
資産合計		3,135,837
負債の部		
流動負債		
預り金		15,338
未払金		820,588
未払費用		52,872
未払法人税等		46,804
前受収益		11,645
賞与引当金		62,304
流動負債合計		1,009,554
固定負債		
退職給付引当金		117,574
役員退職慰労引当金		4,394
資産除去債務		48,500
固定負債合計		170,469
負債合計		1,180,023
純資産の部		
株主資本		
資本金		940,000
資本剰余金		
資本準備金		1,057,021
利益剰余金		
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金		41,208
株主資本合計		1,955,813
純資産合計		1,955,813
負債・純資産合計		3,135,837

(2) 中間損益計算書

(単位：千円)

		当中間会計期間 (自2022年1月1日 至2022年6月30日)
営業収益		
委託者報酬		81,670
運用受託報酬		1,002,470
投資助言報酬		10,295
その他営業収益	*1	162,325
営業収益合計		1,256,762
営業費用		168,968
一般管理費	*2	759,240
営業利益		328,553
営業外収益		164
営業外費用	*3	20,680
経常利益		308,037
税引前中間純利益		308,037
法人税、住民税及び事業税		32,819
中間純利益		275,217

(3) 中間株主資本等変動計算書

(単位：千円)

当中間会計期間
(自2022年1月1日
至2022年6月30日)

項目	株主資本			
	資本金	資本剰余金		
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計
当期首残高	940,000	1,057,021	-	1,057,021
当中間期変動額				
中間純利益	-	-	-	-
当中間期変動額合計	-	-	-	-
当中間期末残高	940,000	1,057,021	-	1,057,021

項目	株主資本			株主資本合計	純資産合計
	利益剰余金		利益剰余金合計		
	その他利益剰余金	繰越利益剰余金			
	繰越利益剰余金				
当期首残高	316,425	316,425	1,680,595	1,680,595	
当中間期変動額					
中間純利益	275,217	275,217	275,217	275,217	
当中間期変動額合計	275,217	275,217	275,217	275,217	
当中間期末残高	41,208	41,208	1,955,813	1,955,813	

重要な会計方針

当中間会計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)
--

<p>1. 固定資産の減価償却の方法</p>	<p>(1) 有形固定資産 定額法により償却しております。 なお、主な耐用年数は以下の通りであります。</p> <table border="0"> <tr> <td>建物附属設備</td> <td>15年</td> </tr> <tr> <td>器具備品</td> <td>3～18年</td> </tr> </table> <p>(2) 無形固定資産 定額法により償却しております。 ソフトウェア 5年</p>	建物附属設備	15年	器具備品	3～18年
建物附属設備	15年				
器具備品	3～18年				
<p>2. 引当金の計上基準</p>	<p>(1) 賞与引当金 賞与の支給に備えるため、支給見込額に基づき計上しております。</p> <p>(2) 退職給付引当金 従業員に対する退職給付に備えるため、事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき、当中間会計期間末において発生していると認められる額を計上しております。数理計算上の差異は、その発生年度で一括費用処理しております。</p> <p>(3) 役員退職慰労引当金 役員に対する退職慰労金の支給に備えるため、支給見込額に基づき計上しております。</p> <p>(4) 貸倒引当金 債権の貸倒れによる損失に備えるため、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。</p>				
<p>3. 収益の計上基準</p>	<p>当社は、投資運用業の契約に基づき顧客の資産を管理・運用する義務を負っています。契約における履行義務の充足に伴い、契約により定められたサービス提供期間にわたって収益を認識しております。具体的には以下の通りです。</p> <p>委託者報酬は、投資信託の信託約款に基づき日々の純資産価額に対する一定割合として運用期間にわたり収益として認識しております。</p> <p>運用受託報酬は、対象顧客との投資一任契約に基づき月末純資産価額等に対する一定割合として運用期間にわたり収益として認識しております。</p> <p>また、当社の関係会社から受取る運用受託報酬及び振替収益は、関係会社との契約で定められた算式に基づき月次で認識しております。</p>				
<p>4. 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準</p>	<p>外貨建金銭債権債務は、中間会計期間末の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。</p>				

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

当社は「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)、「収益認識に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第30号)を当中間会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。

なお、本基準の適用により当社の中間財務諸表に与える重要な影響はありません。

(時価算定会計基準等の適用)

当社は「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号。以下「時価算定会計基準」という。)等を当事業年度の期首から適用し、時価算定会計基準第19項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することとしております。

なお、本基準の適用により当社の中間財務諸表に与える重要な影響はありません。

注記事項

(中間貸借対照表関係)

当中間会計期間末 (2022年6月30日現在)	
*1	有形固定資産の減価償却累計額
	建物附属設備 87,438千円
	器具備品 67,679千円
*2	消費税等の取扱い
	仮払消費税等及び仮受消費税等は、相殺のうえ、未収消費税等として表示しております。

（中間損益計算書関係）

当中間会計期間 （自 2022年1月1日 至 2022年6月30日）	
*1	その他営業収益 その他営業収益には、金融商品取引法第35条に規定されている付随業務として、 関係会社等とのリエゾン業務に係る収益が主に計上されております。
*2	減価償却実施額 有形固定資産 8,822千円
*3	営業外費用の主要項目 為替差損 20,680千円

（中間株主資本等変動計算書関係）

当中間会計期間（自2022年1月1日 至2022年6月30日）

1. 発行済株式に関する事項

株式の種類	当期首株式数	増加株式数	減少株式数	当中間会計期間末株式数
普通株式	308,168	-	-	308,168

2. 自己株式に関する事項

該当事項はありません。

3. 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4. 配当に関する事項

該当事項はありません。

（リース取引関係）

該当事項はありません。

（資産除去債務関係）

資産除去債務のうち中間貸借対照表に計上しているもの

当該資産除去債務の総額の増減

（単位：千円）

	当中間会計期間 （自2022年1月1日 至2022年6月30日）
期首残高	48,500
有形固定資産の取得に伴う増加	-
資産除去債務の履行による減少額	-
中間期末残高	48,500

（金融商品関係）

金融商品の時価等に関する事項

当中間会計期間末（2022年6月30日現在）

預金、未収委託者報酬、未収運用受託報酬、未収入金、差入保証金、預り金、未払金は短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、記載を省略しております。

長期差入保証金については、重要性が乏しいため、注記を省略しております。

（有価証券関係）

該当事項はありません。

（デリバティブ取引関係）

該当事項はありません。

（収益認識関係）

顧客との契約から生じる収益を分解した情報については、注記事項（セグメント情報等）に記載のとおり、当社は投資運用業の単一セグメントであり、製品・サービスの区分の決定方法は、中間損益計算書の営業収益の区分と同じであることから、セグメント情報に追加して記載することを省略しております。

（セグメント情報等）

[セグメント情報]

当中間会計期間（自2022年1月1日 至2022年6月30日）

当社の報告セグメントは、「投資運用業」という単一セグメントであるため、記載を省略しております。

[関連情報]

当中間会計期間（自2022年1月1日 至2022年6月30日）

1. 製品及びサービスごとの情報

（単位：千円）

	委託者報酬	運用受託報酬	投資助言報酬	その他営業 収益	合計
外部顧客への 営業収益	81,670	1,002,470	10,295	162,325	1,256,762

2. 地域ごとの情報

(1) 営業収益

（単位：千円）

日本	シンガポール	英国	オランダ	ルクセンブルグ	その他	合計
128,381	69,930	458,094	98,535	498,585	3,234	1,256,762

注）営業収益は顧客の所在を基礎として、国又は地域に分類しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が中間貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、地域ごとの有形固定資産の記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称又は氏名	営業収益	関連するセグメント名
アバディーン・スタンダード・インベストメンツ・ルクセンブルグ・エスエー	498,585	投資運用業
イグニス・インベストメンツ・サービス・リミテッド	247,662	投資運用業

(持分法損益関係)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

当中間会計期間 (自 2022年1月1日 至2022年6月30日)	
1株当たり純資産額	6,346円58銭
1株当たり中間純利益	893円07銭

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり中間純利益については、潜在株式が存在しないため、記載していません。

2. 1株当たり中間純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	当中間会計期間 (自 2022年1月1日 至2022年6月30日)
中間純利益(千円)	275,217
普通株式に係る中間純利益(千円)	275,217
普通株主に帰属しない金額(千円)	-
普通株式の期中平均株式数(株)	308,168

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

4【利害関係人との取引制限】

委託会社は、「金融商品取引法」の定めるところにより、利害関係人との取引について、次に掲げる行為が禁止されています。

自己又はその取締役もしくは執行役との間における取引を行うことを内容とした運用を行うこと（投資者の保護に欠け、もしくは取引の公正を害し、または金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。）。

運用財産相互間において取引を行うことを内容とした運用を行うこと（投資者の保護に欠け、もしくは取引の公正を害し、または金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。）。

通常取引の条件と異なる条件であって取引の公正を害するおそれのある条件で、委託会社の親法人等（委託会社の総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下において同じ。）または子法人等（委託会社が総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下同じ。）と有価証券の売買その他の取引または金融デリバティブ取引を行うこと。

委託会社の親法人等または子法人等の利益を図るため、その行う投資運用業に関して運用の方針、運用財産の額もしくは市場の状況に照らして不必要な取引を行うことを内容とした運用を行うこと。

上記に掲げるもののほか、委託会社の親法人等または子法人等が関与する行為であって、投資者の保護に欠け、もしくは取引の公正を害し、または金融商品取引業の信用を失墜させるおそれのあるものとして内閣府令で定める行為

5【その他】

a．定款の変更

委託会社の定款の変更に関しては、株主総会の決議が必要です。

b．訴訟事件その他の重要事項

本書提出日現在、委託会社およびファンドに重大な影響を与えた事実、または与えると予想される事実はありません。

第2【その他の関係法人の概況】

1【名称、資本金の額及び事業の内容】

(1)受託会社

名称	資本金の額 (2022年9月末日現在)	事業の内容
三菱UFJ信託銀行株式会社	324,279百万円	銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律（兼営法）に基づき信託業務を営んでいます。
(再信託受託会社) 日本マスタートラスト信託銀行株式会社	10,000百万円	

(2)販売会社

名称	資本金の額 (2022年9月末日現在)	事業の内容
株式会社もみじ銀行 ^{*1}	10,000百万円	銀行法に基づき銀行業を営んでいます。
株式会社りそな銀行	279,928百万円	
株式会社みずほ銀行	1,404,065百万円	
PWM日本証券株式会社 ^{*1}	3,000百万円	金融商品取引法に定める第一種金融商品取引業を営んでいます。
静銀ティーエム証券株式会社	3,000百万円	
大和証券株式会社	100,000百万円	
野村證券株式会社 ^{*1}	10,000百万円	
楽天証券株式会社	19,495百万円	
株式会社SBI証券	48,323百万円 ^{*2}	

*1 当該販売会社は、本書提出日現在、新規募集を停止しております。

*2 資本金の額は2022年6月末日現在です。

2【関係業務の概要】

(1)受託会社

信託財産の保管・管理業務・計算、外国証券を保管・管理する外国の保管銀行への指図・連絡等を行います。

(2)販売会社

募集の取扱いおよび販売を行い、信託契約の一部解約に関する事務、収益分配金の再投資に関する事務、一部解約金・償還金の支払いに関する事務等を行います。

3【資本関係】

(1)受託会社

該当事項はありません。

(2)販売会社

該当事項はありません。

第3【その他】

- (1)目論見書の別称として「投資信託説明書（交付目論見書）」または「投資信託説明書（請求目論見書）」という名称を用いることがあります。
- (2)目論見書の表紙等に次の各事項を記載することがあります。
 - 金融商品取引法（昭和23年法律第25号）第13条の規定に基づく目論見書である旨
 - 委託会社等の情報、受託会社に関する情報
 - 詳細な情報の入手方法
 - ・委託会社のホームページアドレス、電話番号および受付時間等
 - ・請求目論見書の入手方法および信託約款が請求目論見書に掲載されている旨
 - 目論見書の使用開始日
 - 届出の効力に関する事項について、次に掲げるいずれかの内容について
 - ・届出をした日および当該届出の効力の発生の有無を確認する方法
 - ・届出をした日、届出が効力を生じている旨および効力発生日
 - 投資信託の財産は受託会社において信託法に基づき分別管理されている旨
 - 請求目論見書は投資者の請求により販売会社から交付される旨および当該請求を行った場合にはその旨の記録をしておくべきである旨
 - 「ご購入に際しては、本書の内容を十分にお読みください。」との趣旨を示す記載
 - 委託会社のロゴ・マーク等
 - ファンドの形態等
 - 図案
 - ファンドの管理番号等
- (3)交付目論見書に最新の運用実績を記載することがあります。
- (4)請求目論見書に当ファンドの投資信託約款の全文を記載します。

独立監査人の監査報告書

2022年3月25日

アバディーン・ジャパン株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

東京事務所

指定有限責任社員 公認会計士 松井貴志
業務執行社員**監査意見**

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられているアバディーン・ジャパン株式会社の2021年1月1日から2021年12月31日までの第29期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、アバディーン・ジャパン株式会社の2021年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

財務諸表に対する経営者及び監査役の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。

- ・ 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

2023年2月17日

アバディーン・ジャパン株式会社
取締役会御中

PwCあらた有限責任監査法人

東京事務所

指定有限責任社員 公認会計士 久保 直毅
業務執行社員

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられている[アバディーン・ファンド・セレクション]海外高格付け債ファンド Bコース（為替ヘッジなし）の2022年6月11日から2022年12月12日までの計算期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、[アバディーン・ファンド・セレクション]海外高格付け債ファンド Bコース（為替ヘッジなし）の2022年12月12日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する計算期間の損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、アバディーン・ジャパン株式会社及びファンドから独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

その他の記載内容

その他の記載内容は、有価証券報告書及び有価証券届出書（訂正有価証券届出書を含む）に含まれる情報のうち、財務諸表及びその監査報告書以外の情報である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。

当監査法人の財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

財務諸表監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と財務諸表又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうかを検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうかを注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業的前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、ファンドは継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、経営者に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

アバディーン・ジャパン株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記の監査報告書の原本は当社が別途保管しております。

2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の中間監査報告書

2022年9月22日

アバディーン・ジャパン株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

東京事務所

指定有限責任社員 公認会計士 松井貴志
業務執行社員**中間監査意見**

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられているアバディーン・ジャパン株式会社の2022年1月1日から2022年12月31日までの第30期事業年度の中間会計期間（2022年1月1日から2022年6月30日まで）に係る中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益計算書、中間株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について中間監査を行った。

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、アバディーン・ジャパン株式会社の2022年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する中間会計期間（2022年1月1日から2022年6月30日まで）の経営成績に関する有用な情報を表示しているものと認める。

中間監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準における当監査法人の責任は、「中間財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

中間財務諸表に対する経営者及び監査役の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

中間財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき中間財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

中間財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した中間監査に基づいて、全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得て、中間監査報告書において独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、中間財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に従って、中間監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応する中間監査手続を立案し、実施する。中間監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。なお、中間監査手続は、年度監査と比べて監査手続の一部が省略され、監査人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要な応じて追加の監査手続が選択及び適用される。
- ・ 中間財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として中間財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、中間監査報告書において中間財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する中間財務諸表の注記事項が適切でない場合は、中間財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、中間監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 中間財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた中間財務諸表の表示、構成及び内容、並びに中間財務諸表が基礎となる取引や会計事象に関して有用な情報を表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役に対して、計画した中間監査の範囲とその実施時期、中間監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む中間監査上の重要な発見事項、及び中間監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記の中間監査報告書の原本は当社が別途保管しております。

2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。